

平成 26 年度事業報告書及び財務諸表

目次

I	法人の概況	2
II	総括	5
III	会務の概況	6
IV	本部活動報告	9
V	事業本部活動報告	10
	運営本部	10
	教育事業本部	13
	技術本部	18
	ET事業本部	29
VI	支部活動報告	32
	北海道支部	32
	東北支部	32
	東京支部	38
	中部支部	41
	北陸支部	44
	近畿支部	46
	九州支部	50
	事業報告の附属明細書	54
	平成 26 年度財務諸表	55

I 法人の概況

1. 設立年月日 昭和 61 年 8 月 7 日

2. 定款に定める目的

本会は、組込みシステム(組込みソフトウェアを含めた組込みシステム技術をいう。以下同じ。)における応用技術に関する調査研究、標準化の推進、普及及び啓発等を行うことにより、組込みシステム技術の高度化及び効率化を図り、もって我が国の産業の健全な発展と国民生活の向上に寄与することを目的とする。

3. 定款に定める事業内容

- (1) 組込みシステム応用技術に関する品質、生産性、信頼性、セキュリティ等に関する技術開発及び標準化の推進
- (2) 組込みシステム技術に関する人材育成、地域振興及び国際交流の推進
- (3) 組込みシステムに係る技術・環境・経営及び貿易・投資に関する調査研究並びに情報の提供
- (4) 組込みシステム技術などに関する内外関係機関との情報交流及び連携の推進
- (5) 組込みシステム応用技術の普及啓発
- (6) 本会の会員に対する福利厚生に関する事業の推進
- (7) その他本会の目的を達成するために必要な事業

4. 日本標準産業分類

G3912 組込みソフトウェア業

5. 会員の状況

平成 27 年 3 月 31 日現在

	当期末	前期末	前期末比増減
正会員	183 社	179 社	4 社
賛助会員	31 社	33 社	△2 社
合計	214 社	212 社	2 社

6. 主たる事務所、支部の状況

(主たる事務所)東京都中央区日本橋浜町 1-8-12 東実年金会館 8 階

(支部)

北海道支部	東京都中央区日本橋浜町 1-8-12 東実年金会館 8 階
東北支部	宮城県仙台市宮城野区銀杏町 31-24 東杜シーテック(株)内
東京支部	東京都中央区日本橋浜町 1-8-12 東実年金会館 8 階
中部支部	愛知県名古屋市東区東桜 2-2-1 高岳パークビル 萩原電気(株)内
北陸支部	福井県福井市川合鷺塚町 61 字北稻田 10 (社)福井県情報システム工業会内
近畿支部	大阪府大阪市西区鞠本町 1-8-4 (財)大阪科学技術センター内
九州支部	福岡県福岡市中央区天神 2-13-7 福岡平和ビル

7. 役員に関する事項

別紙のとおり

8. 職員に関する事項

平成 27 年 3 月 31 日現在

職員数	前期末比増減	平均年齢	平均勤続年数
4 名	0 名	46.3 歳	9.7 年

9. 許認可に関する事項

特になし

<別紙>

一般社団法人 組込みシステム技術協会 役員・顧問
(平成 27 年 3 月 31 日現在)

(役職)	(支部)	(氏名)	(常勤・非常勤)	(会社名等)
会長	東京	築田 稔	非常勤	(株)コア
副会長	東京	長谷川 恵三	非常勤	(株)セントラル情報センター
専務理事	(員外)	門田 浩	常勤	組込みシステム技術協会
理事	東京	塚田 英貴	非常勤	(株)エヌデーデー
理事	東京	藤木 優	非常勤	(株)ブライセン
理事	近畿	杉本 浩	非常勤	キルインフォメーションズ(株)
理事	東京	漆原 憲博	非常勤	(株)ジェーエフピー
理事	北海道	中野 隆司	非常勤	(株)北斗電子
理事	東北	佐々木 賢一	非常勤	トライ・ド・ワーカス(株)
理事	東北	本田 光正	非常勤	東杜シーテック(株)
理事	東京	大橋 憲司	非常勤	(株)エンベックス
理事	東京	田中 晃	非常勤	アンドールシステムサポート
理事	東京	竹岡 尚三	非常勤	(株)アックス
理事	東京	中村 憲一	非常勤	アップ・ウインド・テクノロジー・インコーポ・リテッド
理事	東京	廣田 豊	非常勤	TDI プロダクトソリューション(株)
理事	東京	小西 誠治	非常勤	(株)Sohwa&Sophia Technologies
理事	東京	加賀谷 龍一	非常勤	株ビッツ
理事	東京	下山 到	非常勤	日本ノーベル(株)
理事	中部	脇田 周爾	非常勤	(株)ヴィッツ
理事	中部	青木 義彦	非常勤	(株)サンテック
理事	中部	萩原 義昭	非常勤	萩原電気(株)
理事	北陸	進藤 哲次	非常勤	(株)ネスティ
理事	近畿	奥 講三	非常勤	シグマ電子工業(株)
理事	近畿	竹内 嘉一	非常勤	(株)日新システムズ
理事	近畿	松本 浩樹	非常勤	(株)コミュニケーション・テクノロジー
理事	(員外)	鈴木 龍一	常勤	組込みシステム技術協会
理事	(員外)	原田 晃	非常勤	東京都立産業技術研究センター
理事	(員外)	福田 晃	非常勤	九州大学
理事	(員外)	清水 徹	非常勤	
監事	近畿	小幡 忠信	非常勤	アルカディアシステムズ(株)
監事	(員外)	小森谷 豊	非常勤	税理士法人レインボーワークス
名誉顧問		種村 良平	非常勤	(株)コア
顧問		松尾 隆徳	非常勤	東洋電機(株)
技術顧問		崎詰 素之	非常勤	

理事:28人(内訳:会長1人、副会長1人、専務理事1人、理事25人)

監事:2人 顧問:3人

II 総括

平成 26 年度の国内景気は、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動による落ち込みがあったものの、緩やかな回復基調に推移し、企業収益や雇用環境の改善が見られた。

一方、組込みシステム業界を取り巻く環境は、製品のネットワーク化やクラウドの普及による時代の要請を受け、従来の独立したシステムから大きく変貌するとともに、技術分野にも更なる広がりを見せておりビジネス機会の新たなる展開が予想される状況となっている。

このような環境を反映し、当会の事業にもいくつかの変革をもたらす年となった。

最大のイベントである「組込み総合技術展 ET2014」のコンセプトを、「IoT でビジネスが変わる。組込み技術が進化する」と掲げ、カンファレンスも含め「IoT」を前面に打ち出した企画となり、集客数も前年を上回る結果となった。また、ET-WEST においても、会場をグランフロント大阪に変更するなど、来場者の便宜を図ることで過去最大の来場者数を得ることができた。

教育事業では、ETEC クラス1試験の開発が来年度リリース見込みとなり、ET ロボコンでは、今年より、デベロッパー部門をプライマリークラスとアドバンストクラスに分け、2 部門 3 クラスとし参加者への門戸を広げた。

技術本部活動では、ロボット用ソフトウェアのプラットフォーム「OpenEL」の国際標準化への提案活動に端を発した、「国際ロボットカンファレンス 2014」の開催や、ロボットの安全性に関する調査活動と「ロボット」をテーマとした活動へのシフト展開が見られた。

平成 26 年度重点事業項目

1. 組込み技術の調査研究活動の推進と研究成果の情報発信
2. 協業活動の強化推進
3. 国際化推進
4. 組込みソフトウェア技術者試験(ETEC)の普及拡大
5. ET 展示会の拡充
6. 地域活動の強化
7. 関連団体との情報交換及び連携事業推進

III 会務の概況

1. 総会

社員総会(第28回)平成26年6月19日(木)ザ ランドマークスクエアトーキョーにて以下に示す議案が諮られ、承認可決された。

<決議事項>

- 第1号議案 平成25年度事業報告書(案)承認の件
- 第2号議案 平成25年度財務諸表(案)承認の件
- 第3号議案 平成25年度公益目的支出計画実施報告の件
- 第4号議案 役員選任の件
- 第5号議案 入会キャンペーンに伴う入会金の減免措置承認の件

<報告事項>

- ①役員退任の報告
- ②平成26年度事業計画及び平成26年度収支予算書の件

理事会

平成26年5月22日から平成27年3月19日にわたり、計5回の理事会を開催した。

➢ 第176回理事会

平成26年5月22日(木)於 東実年金会館4階大会議室

議事

- | | | |
|------|-----------------------|------|
| (1) | 平成25年度事業報告書(案) | 【審議】 |
| (2) | 平成25年度財務諸表(案) | 【審議】 |
| (3) | 平成25年度公益目的支出計画実施報告(案) | 【審議】 |
| (4) | 役員退任の報告 | 【報告】 |
| (5) | 参与の選任 | 【審議】 |
| (6) | 役員候補者の選任 | 【審議】 |
| (7) | 平成26年度事業計画 | 【報告】 |
| (8) | 平成26年度事業予算 | 【報告】 |
| (9) | 新入会員の承認 | 【審議】 |
| (10) | 入会キャンペーンの実施について | 【審議】 |
| (11) | その他
① 後援/協賛等受諾行事 | 【報告】 |

➢ 第177回理事会

平成26年6月19日(木)於 ランドマークスクエアトーキョー

議事

- | | | |
|-----|---------------------|------|
| (1) | 社員総会資料一式確認 | 【確認】 |
| (2) | 新入会員の承認 | 【審議】 |
| (3) | 支部運営規約の改版について | 【審議】 |
| (4) | 組込み画像ビジネス研究会設立について | 【審議】 |
| (5) | その他
① 後援/協賛等受諾行事 | 【報告】 |

➢ 第 178 回理事会

平成 26 年 9 月 18 日(木) 於 京都 あと村 会議室

議事

- | | | |
|-----|--|--------------|
| (1) | 各事業本部報告
・運営本部、教育事業本部、技術本部、ET 事業本部、支部統括本部 | 【確認】 |
| (2) | 各支部活動報告
・北海道・東北・東京・中部・北陸・近畿・九州 | 【報告】 |
| (3) | 平成 26 年度予算修正について
画像処理ビジネス研究会設立 | 【審議】 |
| (4) | 新入会員企業の承認について | 【審議】 |
| (5) | その他
① 後援/協賛等受諾行事
② 役員関連行事日程表(平成 26 年度下期、27 年度上期) | 【報告】
【協議】 |

➢ 第 179 回理事会

平成 26 年 12 月 4 日(木) 於 ロイヤルパークホテル水天宮 4 階

議事

- | | | |
|-----|--|------------------------------|
| (1) | 各事業本部報告
・運営本部、教育事業本部、技術本部、ET 事業本部、支部統括本部 | 【報告】 |
| (2) | 各支部活動報告
・北海道・東北・東京・中部・北陸・近畿・九州 | 【報告】 |
| (3) | 新入会員企業の承認について | 【審議】 |
| (4) | その他
① 平成 27 年度事業計画及び予算計画の作成のお願い
② 平成 27 年度役員改選のお知らせ
③ 後援・協賛等受諾報告
④ 役員関連行事日程表(平成 26 年度下期、27 年度上期) | 【報告】
【報告】
【報告】
【報告】 |

➢ 第 180 回理事会

平成 27 年 3 月 19 日(木) 於 東実年金会館 3 階

- | | | |
|------|--|--------------|
| (1) | 平成 26 年度決算見込み | 【報告】 |
| (2) | 平成 27 年度事業計画(案) | 【審議】 |
| (3) | 平成 27 年度予算(案) | 【審議】 |
| (4) | 平成 27,28 年度 役員候補者について | 【審議】 |
| (5) | 年会費について | 【審議】 |
| (6) | 入会金免除措置延長について | 【審議】 |
| (7) | 各種規約の変更について | 【審議】 |
| (8) | 支部長の任免 | 【審議】 |
| (9) | 各事業本部活動報告
・運営本部、教育事業本部、技術本部、ET 事業本部 | 【報告】 |
| (10) | 各支部活動報告
・北海道、東北、東京、中部、北陸、近畿、九州 | 【報告】 |
| (11) | 新入会員企業の承認について | 【審議】 |
| (12) | その他
① 後援/協賛等受諾行事
② 役員関連行事日程表 | 【報告】
【報告】 |

2. 会員の変動状況

前年度期末会員数は、正会員 179 社、賛助会員 33 社の合計 212 社であった。期中において、正会員 17 社の入会があったが、退会が正会員 13 社、賛助会員 2 社の入会があったが、退会が 4 社あったため、本年度期末会員数は、正会員社 183 社、賛助会員 31 社の合計 214 社となった。

新入会員

① (株)ビーメソッド	(正会員／東京)
② (株)COSMO LINK PLANNING	(正会員／東京)
③ (株)富士通コンピュータテクノロジーズ	(正会員／東京)
④ トヨタテクニカルデベロップメント(株)	(正会員／中部)
⑤ (株)OTSL	(正会員／中部)
⑥ (有)中野情報システム	(正会員／近畿)
⑦ アクサス(株)	(正会員／東京)
⑧ (株)ワイス・ラブ	(正会員／近畿)
⑨ (株)ルナネクサス	(正会員／近畿)
⑩ (株)永栄	(正会員／東京)
⑪ ハートランド・データ(株)	(正会員／東京)
⑫ IAR システムズ(株)	(正会員／東京)
⑬ (株)トーメンエレクトロニクス	(賛助会員)
⑭ (株)エイチアイ	(正会員／東京)
⑮ (株)エリック・アンド・アンディ	(正会員／東京)
⑯ ACCEL JAPAN(株)	(正会員／東京)
⑰ ライジングサン企画(株)	(正会員／九州)
⑱ (株)ルネサスイーストン 技術本部 ソフト開発部	(正会員／東京)
⑲ (社)重要生活機器連携セキュリティ協議会	(賛助会員)

IV 本部活動報告

平成 26 年度事業の推進は下表の本部組織にて行った。

平成 26 年度 JASA 事業組織表

事業本部名	委員会/研究会名	WG 名	公益支出事業
運営本部	総務委員会		事業番号 1
	広報委員会	機関誌発行 WG HP 管理 WG	
	国際委員会		
	協業推進委員会		
教育事業本部	ETEC 企画委員会	問題作成 WG	事業番号 2
	研修委員会		
	ET ロボコン実行委員会		
技術本部	安全性向上委員会		事業番号 4
	技術高度化委員会	OSS 活用 WG	事業番号 3
		実装品質強化 WG	
		状態遷移設計研究会	
	応用技術調査委員会	技術セミナー委員会 プラットフォーム研究会	事業番号 5
ET 事業本部	ハードウェア委員会		事業番号 3
	ET 実行委員会 ETWest 実行委員会		

<参考>公益支出事業

事業番号 1 組込み技術を普及するための海外及び国内調査研究

事業番号 2 組込み技術を担う技術者育成のための能力試験およびセミナーの実施

事業番号 3 開発高度化事業

事業番号 4 安全・安心関連事業

事業番号 5 技術啓発・人材育成事業

また、下記 2 件の本部直轄事業を実施した。

人材確保検討プロジェクト

■ 活動概要

人材確保検討プロジェクトは、東京都労働局の「中小企業人材確保推進事業助成金制度」を運用し、人材確保ならびに職場定着の施策を展開する JASA の各委員会を、横断的に支援するプロジェクトである。

JASA はこのプロジェクトを通じて会員企業の雇用状況の改善を目的としており、JASA 各委員会の施策が円滑に運ぶよう事業内容の提案や、雇用状況のアンケート調査・分析を行っている。

H24 年度より、3 カ年のプロジェクトとして進めており、最終年度(H26 年度)の活動に対し、東京都労働局より 467 万円の助成金を受けることになった。

高齢者雇用推進プロジェクト

■ 活動概要

高齢者雇用推進プロジェクトは、独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構からの委託事業として、平成 25 年度から 2 カ年で、「組込みシステム業における高齢者雇用推進ガイドライン」を策定し、その普及活動を行うためのワーキンググループである。今期の 920 万円の委託事業費を受領し終了した。

V事業本部活動報告

運営本部

総務委員会

- ・ 規程類改定をメール主体で議論し実施した。

広報委員会

1. 機関誌発行 WG

協会機関誌「Bulletin JASA」を定期発行(年4回)した。協会広報及び技術情報誌としての情報発信機能を強化し、併せて会員連携の促進と新規会員勧誘の機能を具備した有効なメディアとして記事内容の拡充を図り、会員企業はじめ関連業界や教育機関、また主催イベント等にて広く配布・展開した。

①平成26年7月24日 Vol.50 発行 ET West 2014 特集・会場配布号

ETWest2014 プレビュー及び出展紹介、Computex・TCA を訪ねて、技術本部成果発表会、会員企業訪問、組込み画像処理ビジネス研究会紹介、OpenEL活動状況、第5回プラグフェス開催報告等

②平成26年9月29日 Vol.51 発行 人材育成・教育企画号

座談会企画「管理職か技術職か? 分岐点に立つ中堅技術者」、「新人社員に求められる技術知識アンケート調査結果」、会員企業訪問、技術寄稿「SysML 活用のすすめ」、国際ロボットカンファレンス2014「ロボットと人の共生の道を探る」開催報告等

③平成26年11月18日 Vol.52 発行 ET2014 特集・会場配布号

ET2014 プレビュー「見どころ聞きどころ」、会員企業訪問、ET セミナー「機能安全対策講座2」実施報告等

④平成27年1月16日 Vol.53 発行 新年特別号

「会員企業による業界2015年の見通し／景気動向アンケート集計」、ET ロボコンチャンピオンシップ大会、会員企業訪問、国際だより「グローバルフォーラム2014 開催報告」、先進企業視察報告(北陸支部)等

2. 協会・業界広報

①協会キャラクター(クミコ・ミライ)利用による、JASA 紹介用「協会案内編」
並びに教育機関・学生向け「組込みシステム業界紹介編」の動画を作成した。
HP掲載・各種イベント等で、動画活用を広く周知していく。

②報道機関向けプレス発表及び媒体活用による協会広報を進めた。

ET 並びにETAward 発表、ETWest、OpenEL、ET ロボコン等

3. 委員会の開催

- 委員会事業を遂行するため、定例会議を開催した。(技術セミナーWG 同時開催)
- 4月 23日 協会紹介パンフレット製作関連 BuletinJASA 年間計画策定、他
 - 5月 27日 BulletinJASA 50 コンテンツ検討・確認、他
 - 6月 24日 座談会「中堅技術者のキャリアパス」企画、他
 - 7月 23日 協会紹介パンフレット発行 BulletinJASA 50 編集・発行、他
 - 8月 20日 BulletinJASA 51 コンテンツ検討・確認、他
 - 9月 25日 業界紹介用動画製作関連、キャラクターグッズ製作関連 BulletinJASA 51 編集・発行
 - 11月 6日 キャラクターグッズ製作・ET 活用 BulletinJASA 52 編集・発行、他
 - 12月 17日 BulletinJASA 53 コンテンツ確認・編集、他
 - 1月 21日 業界・協会紹介用動画製作関連、他
 - 2月 10日 業界紹介用動画製作関連、他

国際委員会

1. 国際委員会の定期開催

- ・委員会を隔月に計 6 回開催。

*委員会では、主に国際委員会に対するニーズの調査から、グローバルフォーラムの企画・実行及び、海外視察の企画、海外協会との MOU 締結についての模索を行った。
*識者を委員会に招き、委員会としての課題を探るため、「委員会スピーチ」を行った。

● 委員会の内容

- (1) 第 29 回国際委員会 (4月 22 日)
主な議題: WS 結果報告と平成 26 年度事業計画
スピーチ:「ヨーロッパ企業のインドソフト活用例」
（株）ジェネシス 代表取締役 西山 征夫 氏
- (2) 第 30 回国際委員会 (6月 24 日)
主な議題: グローバルフォーラムの企画検討と海外視察ツアーの検討
スピーチ:「マレーシアの IT&企業情勢」
元ソフトシリウス 代表取締役 石井 孝 氏
- (3) 第 31 回国際委員会 (8月 21 日)
主な議題: 海外視察ツアーの検討と MOU 締結関連の議論
スピーチ:「中部支部 ベトナム視察報告」 中部支部事務局 佐藤 博昭 氏
- (4) 第 32 回国際委員会 (10月 16 日)
主な議題: グローバルフォーラムの詳細検討と VINASA と MOU 検討
スピーチ: なし
- (5) 第 33 回国際委員会 (12月 11 日)
主な議題: グローバルフォーラム結果報告と平成 27 年度事業計画検討
スピーチ: なし
- (6) 第 34 回国際委員会 (2月 2 日)
主な議題: VINASA との意見交換会と海外協会との交流について
スピーチ: なし

2. 「JASA グローバルフォーラム 2014」の開催

- ・開催日: 平成 26 年 11 月 20 日(木) 12:30～17:00
- ・会場: パシフィコ横浜 アネックスホール 2F [F206]
- ・参加者数: 79 名(講演者、関係者含む)
- ・テーマ: 成功するプロセスを探る～成功例から学ぶ～
- ・目的: 海外協会との交流促進と、国内企業へのグローバル情報の提供
- ・プログラム

【基調講演】

- ・「新興アジアにおけるグローバルビジネス戦略～現状、課題、展望」
　　タイ政府 国家経済社会開発委員会 競争力強化部 政策顧問 松島大輔 氏

【スリランカアワー】

- ・「スリランカのビジネス環境」
　　独立行政法人日本貿易振興機構(ジェトロ)総務部人事課
　　前コロンボ事務所長 崎重 雅英 氏

- ・「スリランカビジネス成功モデル
　～隠れたオフショアに適した国スリランカ、でもその先にあるものは～」
　　株式会社メタテクノ 常務取締役 大和 靖博 氏

- ・「スリランカへのソフト開発再委託 成功事例～海外子会社への発注ノウハウ～」
　　株式会社メタテクノ デバイスエンジニアリング事業部
　　応用技術開発部 部長 高橋 明 氏

- ・「信頼されるオフショア開発パートナーへの道程
　～オフショア受託開発成功への課題と解決策～」
　　株式会社メタテクノランカ 取締役 ガヤーン ダハナーヤカ 氏

- ・パネルディスカッション モデレータ:佐藤 博昭 (JASA 国際委員)
　　パネリスト:上記 4ヶ国講演者

【ベトナムアワー】

- ・「アジアで、Japan Quality を求める！～ベトナムでの上手なマネージメントとは！～」
　　Lifetime Technologies CO., LTD. CEO 松永 正彦 氏
- ・「後悔しないベトナム IT 人材の使い方・育て方」
　　ルビナソフトウェアジャパン株式会社 アカウントマネージャ 栗花落 慧樹 氏
- ・パネルディスカッション モデレータ:廣田 豊 (JASA 国際委員長)

3. JASA ホームページ「JASA 国際だより」、機関誌「Bulletin JASA」への投稿

会員企業及び JASA 外部に対する情報提供と広報活動への貢献のため、委員会から情報発信を行った。

- ・JASA ホームページ「JASA 国際だより」
 - (1) 国際委員会活動状況報告
 - (2)「JASA グローバルフォーラム 2014」開催報告
- ・機関誌 Bulletin JASA「JASA 国際だより」
 - (1)「第 4 回「国際化推進ワークショップ」開催報告 (vol.50)
 - (2)「JASA 国際委員会活動状況報告」(vol.51)
 - (3)「JASA グローバルフォーラム 2014」開催報告 (vol.53)

協業推進委員会

1. 北海道管内での協業イベント対応

平成 24 年度 25 年度と北海道管内での JASA プrezentス向上を目指して最新技術や事業に関するセミナーを開催してきたが、北海道に根ざした組込みシステム開発事業との接点を持つことが中々困難な状況にあった。

調査の結果、IT と ET の業界団体の統廃合の中、表立って組込みシステム開発を主な事業とする企業が激減していることが判明したが、IoT 時代を迎えることと、協業推進としての事業を平成 27 年度以降、再検討することとした。

2. CSAJ 合同開催アライアンスビジネス交流会

平成 22 年度から 5 回目を迎えた。主に開発したアプリケーション販売の販路拡大・投資を目的としたビジネスマッチングである。

いわゆる販売会社とのマッチングの場であり、組込みシステム開発と直接は繋がらないが、自社ブランドのプレゼンテーションや営業活動に磨きをかけてもらう場として積極的な参加を促している。

開催日時 平成 26 年 11 月 26 日(水) 15:00~19:00

開催場所 トスラブ小窓「桜華樓」 東京都新宿区百人町 2-27-6

聴講者数 37 社 48 名

出場企業 JASA からは次の 2 社が出場した。

安川情報エンベデッド株式会社 (説明者:取締役 千葉 勝紀氏)

「入館者確認システム」ビル及び工場の入館者(来場者)の入館確認システムが安価に構築できるソフトウェア。市販されているパートを使って構築が可能。

株式会社ユビキタス(説明者:組込みソリューション事業部長 木村 好徳氏)

デバイスデータ管理ソリューション「DeviceSQL」の業務アプリケーションでの活用

3. JASA 交流セミナー九州

九州支部管内での開催は平成 23 年度から 4 回目を迎えた。IoT をキーワードに、ET2015 基調講演をお願いしたパナソニック梶本様をはじめ、3 本の講演を行った。

開催目的 九州地域の会員ならびに地域産業に向けたセミナーを開催することにより、会員と地域の融合、JASA のプレゼンスを向上させる。

開催日時 平成 27 年 2 月 20 日(金) 14:00~19:00

開催場所 JR 博多シティ 10 階会議室(JR 博多駅ビル)

講演内容

「IoT がつなぐ家電・住宅・自動車・B2B でのコトづくり」
梶本一夫氏(パナソニック㈱全社 CTO 室理事)

「最新の M2M の事例とビジネスモデル分析」
菰岡真人氏(MCPC モバイル M2M 副委員長)

「インテルの IoT 戦略とビジネス機会」

永井寿氏(インテル㈱ソフトウェア & サービス事業開発本部 組込み/IoT 担当部長)

参加者数 66 名

教育事業本部

ETEC 企画委員会

1. クラス 1 開発

試験構成、評価軸、商品スペックを 12 月に固めた。

上記の最終精査のため、評価版試験(β 版試験)を 2 月より開始し、約 200 名様の協力があった。

(平成 27 年度第 1 四半期に統計学を用いて客観的に、試験問題の最終校正ならびに、評価基準の決定を行い、来年度第 2 四半期に配信を開始する。)

『ETEC クラス 1 のスペック』

[目的]中級技術者の評価(ETESS レベル 4~5)

[評価レベル]A:事業統括責任者相当、B:プロジェクト管理者相当、C:管理者補佐相当として、評価カードを発行

[試験開始]平成 27 年度第 2 四半期 [試験方法] Pearson VUE 社の CBT システム

[試験会場]全国の Pearson VUE 試験会場 [開催]毎日

[試験時間]120 分 [試験問題数]90 問 [受験料] 20,000 円(税別)

*会員優待 20%オフ、評価 A~C グレード対象外であった受験者再受験用に 50%オフ

2. クラス 2

(1) 販売促進施策

① 大口ユーザとのタイアップ

受験チケットをまとめ購入している企業に、利用方法、購入時期、規模をヒアリング(電話)し、規模が大きい企業に対しては、価格優遇と引換えに、受験者プロファイルデータを交換するマーケティング提携という形で 2 社契約をした(2 社で全体の 37%)。受領した受験者プロファイルデータを元に ETEC 活用提案資料等、法人アプローチのツールを作成する。

② 擬似試験

ETEC 認知と需要喚起を目的に、展示会において「擬似試験」を開催した。

試験レベル、CBT 画面を実際と同じ環境とし、1/10 のボリュームの試験を「擬似試験」として用意して、ETWest2014 ならびに ET2015 の JASA ブースで行った。

結果、ETWest2015(2 日間)で 145 名、ET2014(3 日間)で 172 名の参加を得た。

(2) 配信試験数《外部秘》

1,135 試験(昨年度比:206%、一昨年度比:96%)

復調傾向にあるが、これは自動車産業を中心とした企業の受験チケット(バウチャー)の大口購入が大きく影響した。

一方で会員受験は、昨年度よりも 2.5 倍と戻りつつあるものの、一昨年度の半数にとどまっている。これは会員のうち外部研修事業者用の再販分が減ったためと想定される。

(3) 受験地域分布

全国 47 都道府県の Pearson VUE 社試験会場にて受験できるが、ETEC で利用されている受験会場に偏りがあり、愛知県の会場が 41% を占め、ここでも自動車産業が中心であることが分かる。

愛知(41%)、石川(10%)、東京(7%)、大阪(7%)、神奈川(6%)、茨城(6%)の上位 6 県で、75% 以上を占める。

JASA 会員の県別の比率に乖離しており、今後会員の利用を高める施策を展開し、需要の顕在化を図る必要性がある。

研修委員会

1. 新卒技術者に対するスキルレベル調査

9 月に会員を対象に実施した「新入社員に求める組込み技術知識と人物像」の調査を編集し、報告書にまとめた。全会員の約 50% に協力いただいた。

学校法人の講師陣、就職支援部門の方への直接のアプローチを目的に ETWest2014(7 月、40 名参加)、ET2014(11 月、「下記 2.(2)業界研究セミナーを参照)において、講演を開催した。

また、本調査は報告書として来年度以降、問合せに対する配布を行う。同時に前年度分を JASA ホームページに開示する。

2. 学校法人へのアプローチ

(1) Bulletin JASA 発送

200 校ほどの全国の学校法人に Bulletin JASA を発送した(年 4 回)。そのタイミングで JASA の教育事業に関する案内も行った。

(2) 業界研究セミナー

ET2014 の機会を捉え、学生と教育関係者を対象に、副題を「～モノづくりを支える組込み業界／ET をもっと知ろう！～」と題して、組込み系企業で活躍する技術者や採用・育成担当者によるセミナーを開催し、51 名の参加を得た。

開催日時: 平成 26 年 11 月 19 日(水)13 時～15 時

開催場所:パシフィコ横浜 アネックスホール

講演概要:

○組込み企業の若手技術者の就職活動と入社後の成長

[講師]鈴木 杏祐実 氏 イーソル(株) (入社2年目の社員)

○新卒を早期に戦力化させる、日本システム開発株式会社の教育

[講師]船戸 康之 氏 日本システム開発(株)

○業界・企業が求める人材像とは~求められる技術スキルと教育の課題~

[講師]宮下光明 氏 (株)グレープシステム (研修委員会副委員長)

○若手組込み技術者の教育を目的としたETロボコンの活用紹介

[講師]星 光行 氏 ETロボコン実行委員会委員長

(ETロボコンチャンピオンシップ大会を案内)

3. KIT/JAIST 产学連携事業

2012年度より金沢工業大学(KIT)ならびに北陸先端科学技術大学院大学(JAIST)の組込みソフトウェア開発スマート人材育成事業に、産業界を代表して参画している。

(1) 評価項目検討会

評価軸を「技術知識」「技術力」「人間力」の3点にしづり、技術知識の評価においてETECの利用を提案した。

技術力については、インターナンシップによる評価の有効性を確認した。

(2) シンポジューム「組込みシステム業界の発展と技術者の育成」

スマート人材育成事業について、組込みシステム開発企業へのコミュニケーションを目的にシンポジュームを開催し、62名(うち、JASA会員32名)の参加を得た。

特に産学間パネル討議において、組込み業界の必要とされる人材要件に対する両者それぞれの認識が得られ、上記「3.(1)評価項目検討会」の今後に反映していくことが確認された。

開催日時:平成27年1月28日(水) 13:00~17:30

開催場所:JAIST 東京サテライトキャンパス(東京都港区品川)

講演内容:

「組込みシステムに関する業界の動向

JASA会長 築田 稔

「組込みシステム開発の課題と技術動向」

名古屋大学 未来社会創造機構 教授 高田 広章氏

「IoT/M2M時代の人材育成」

JAIST 高信頼組込みシステム教育研究センター長 丹 康雄氏

「大学における組込みシステム技術者的人材育成最前線」

KIT 工学部長 渡辺 弥壽夫氏

【パネル討論】組込み技術の進化と発展を支える人材像

コーディネータ:JAIST 特任教授 落水 浩一郎氏

パネリスト:トライポッドワークス(株)社長 佐々木 賢一氏

(独)情報処理推進機構調査役 田丸 喜一郎氏

JAIST 高信頼組込みシステム教育研究センター長 丹 康雄氏

(3) 評価委員会

平成27年3月、スマート人材育成講座の履修報告と、履修者の発表会が開催され、JASAから、加賀谷研修委員長、門田専務理事が出席した。

実際に履修した学生に直接アドバイスを行う機会を獲た。

ET ロボコン実行委員会

2013 年から「デベロッパー部門」と「アーキテクト部門」の 2 部門制で実施したが、2014 年はデベロッパー部門を、「プライマリークラス」と「アドバンストクラス」の 2 クラス制にした。これにより、2 部門 3 クラス制となり、育成したい人材像を明確にした。

●「デベロッパー部門」

プライマリークラス(入門者向け)

技術の基礎を学びチャレンジする機会を提供するクラスという位置づけ。

従来の競技ルールをやさしくして、初心者レベルの参加をしやすくした。

走行体は従来の 2 輪型を使用。過去のモデルの参照も制限しない。見て学ことを奨励。

アドバンストクラス(上級者向け)

技術を応用できるスキルを磨く機会を提供するクラスという位置づけ。プライマリークラスを卒業した人が対象で、より高度な内容に挑戦するクラス。

走行体は、新たに 3 輪の Trike 型を導入。

変更対応力評価を目的に仕様未確定エリアがあり、24 時間前にコースを発表する。

●「アーキテクト部門」

製品を企画・開発するスキルを磨く機会を提供する部門という位置づけ。5 年後、10 年後に活躍できる技術者の育成を目指す。

1. 参加チーム数

2014 年の参加チーム数は、336 チームで、内訳はデベロッパー部門が 302 チーム、アーキテクト部門が 34 チームであった。

2. 地区大会

9 月 13 日の南関東地区大会、中国地区大会を皮切りに、10 月 12 日の北関東地区大会まで、全国で 11 地区大会を実施。

●IPA の協力

IPA/SEC の SEC Journal で ET ロボコンの地区大会からチャンピオンシップ大会までを取材したいという要望があり、すべて地区大会に SEC から 1 名～2 名が取材と IPA 賞のプレゼンターとしてお越し頂いた。

●地域経済産業局の後援と局長賞 ET ロボコンの地区大会を管轄する各地の経済産業局の後援と、アーキテクト部門の優勝者に局長賞が授与された。

2014 年は、北海道地区大会と中国地区大会を除いて、すべての地区で後援と、局長賞が授与された。また、経済局より特別審査員、および局長賞のプレゼンターとしてお越し頂いた。北海道経済産業局は申請が間に合わなかつたが、2015 年度は内諾済。中国経済産業局は四国経産局との調整がつかず、後援のみで局長賞はなし。

3. チャンピオンシップ大会

2014/11/19、20 日の 2 日間、ET2014 の併設イベントとして、チャンピオンシップ大会を開催。デベロッパー部門プライマリークラスは 15 チーム、アドバンストクラスは 15 チーム、アーキテクト部門は 10 チームの合計 40 チームが出場した。

- アーキテクト部門の特別審査員は、プラチナ、ゴールドスポンサー、行政、業界団体などから下記の 21 名を選出し審査をして頂いた。
- 2014 年のアーキテクト部門は、会場審査では、高校生チームが高得点を出したが、企画書を含めた総合得点では、すべて企業チームが上位を独占した。

区分	団体名	区分	団体名
1 プラチナ	(株)ICSコンベンションデザイン	2 ゴールド	情報技術開発(株)
3 ゴールド	(株)アイシン・コムクルーズ	4 ゴールド	(株)日立製作所
5 ゴールド	日立オートモティブシステムズ(株)	6 シルバー	(株)富士通コンピュータテクノロジーズ
7 シルバー	(株)ソフトウェアコントロール	8 シルバー	ソニーデジタルネットワークアプリケーションズ(株)
9 シルバー	(株)富士ゼロックスアドバンストテクノロジー	10 シルバー	リコーITソリューションズ(株)
11 シルバー	セントラル情報センター	12 シルバー	MakersHub
13 シルバー	(株)リクルートキャリア	14 特別協力	SESSAME
15 特別協賛	TOPPERS	16 後援	(独)情報処理推進機構
17 協賛	(一社)情報処理学会	18 横浜	横浜市役所
19 横浜	(株)ディー・エヌ・エー	20	アンドロボティクス(株)
21 主催者	(一社)組込みシステム技術協会		

4. 全国企画会議を実施

2014/12/20～21日、今まで福井市で実施していた全国企画会議を東京で行った。全国11地区から代表者ら22名が出席。今年は、門田専務理事がオブザーバーとして参加をした。

企画会議は、その年の反省と報告、翌年に向けた企画を行う会議である。本部から2014年の総括の報告に続き、各地区の実施内容の報告と要望などを発表した。

5. 2015年度向け記者発表会を実施

2014/2/13(金)16:00～17:30 ふくい南青山291

参加者合計 20名 (メディア8社9名) スタッフ11名

2015年度の競技、審査内容について発表した。また、主催者を代表して、JASA 築田会長に出席頂きご挨拶を頂いた。

参考) 2015年度に向けた活動

➤ 新しい走行体(EV3)の導入

今まで、ETロボコンの走行体はNXTだったが、販売中止となるため、2015から新しい走行体EV3を導入する。ただし、2015年は、移行期間として、NXTとEV3を混在して実施する。

EV3は、NXTと比較して、性能が約6倍、メモリ容量が256倍になり、より高度な走行が可能になる。EV3導入に合わせ、オフィシャルな開発環境として、従来のToppersに追加して、LinuxベースでのC#とJAVAを正式にサポートする。

➤ コースレイアウトの変更

2015年は、コースのレイアウトを大きく変更する。2台の走行体が並走する区間を短くして、別々のコースを走行できるようにする。

また、難所も従来は固定された静的な難所のため予めプログラミングで対処が可能であったが、2015年からは、固定されない動的な難所が登場する。また、通過には走行中に演算を必要とする難所も登場する。

- 技術教育のテキスト改訂
従来、C 言語ベースであったが技術教育のテキストを、2015 年は C++ベースに変更する。その理由として、若手の高校生チームなどが、せっかくモデルを書いても、C 言語に反映できないという問題が浮上してきたためで、C++なら、モデル図を比較的容易にプログラミングに反映できるためである。そのため、審査委員会が中心となって、テキストを全面的にリニューアルした。
- アーキテクト部門の名称変更
アーキテクト部門として 2 年間実施したが、部門名称が分かりにくいという意見があり、「イノベーター部門」に名称を変更した。競技内容は大きく変わっていないが、助走区間なしで、いきなりパフォーマンスを実施する。また、パフォーマンスの準備時間に、プレゼンテーションの実施を規約に盛り込んだ。
- 九州南地区大会(宮崎県、鹿児島県)を新設
九州南地区大会で、全国 12 地区大会での開催となる。従来の九州地区大会は、「九州北地区大会」として実施。
- 参加チーム募集終了
2015 年 3 月 9 日(月)～4 月 9 日まで、2015 年度の参加チームの募集を行った。最終的なエントリー数は確定していないが、2014 年から 10 数チーム増加の見込み。ただ、イノベーター部門の参加が若干減少した。

技術本部

技術本部は、予算の管理、成果発表、共通課題の設定等を主な業務としている。本年度は特に、OpenEL として、プラットフォーム研究会が推し進めているロボット関連技術に関する活動を各委員会の立場から取り組むことを課題とした。安全性向上委員会などは生活支援ロボットに関する安全規格の調査研究を始めるなど、具体的な活動が行われた。
他に関しては例年通りであるが、その概要を以下に述べる。

1. 予算

予算はほぼ例年通りの規模で計画され、おおむね計画通りの実績を得た

2. 技術本部会議

技術本部の活動を統括する場として、年間 4 回本部会議の開催と次年度事業計画とりまとめ、並びに予算案のヒアリングを実施した

- ・4 月 18 日(水)
 - ・各委員会・研究会・WG 平成 25 年度事業報告書確認
 - ・5 月 20 日成果発表会内容検討
- ・9 月 10 日(水)
 - ・各委員会・研究会・WG 活動報告
 - ・委員会規定について議論
 - ・ガンダム・グローバル・チャレンジの参加について
 - ・日経テクノロジオンラインへの定期執筆について
- ・12 月 3 日(水)
 - ・各委員会・研究会・WG 活動報告
 - ・平成 27 年度活動計画予算作成の依頼
- ・2 月 12 日(木) <平成 27 年度事業計画予算案ヒアリング>
- ・3 月 18 日(水)
 - ・各委員会・研究会・WG 活動報告

- ・平成 27 年度事業計画書の確認
- ・5 月 20 日(水)成果発表会の検討

3. 成果発表

- (1) 技術本部成果発表会 5 月 20 日(水)開催 (東実年金会館 4 階会議室)
JASA 内成果発表は、告知期間不足、また当日の悪天候により集客は低調であった。
発表内容にもややマンネリ化があるとの評価もあった。
- (2) ETWest2014 JASA セミナー 7 月 30 日(水)開催 (グランフロント大阪)
テーマの活動を発表した。
- (3) ET2014 JASA 技術本部セミナー 11 月 19 日(水)開催 (パシフィコ横浜アネックスホール)
ET2014 会場では 5 テーマの発表を行い、多くの集客を得た。特に安全性向上委員会の発表は入場を断らざるを得なかった。

4. その他の課題

- (1) モデルベース開発・検証研究会の活動休止対策を技術本部として取り上げた。
各種打診等を行ったが、年度内の活動再開とはならなかった。
- (2) OpenEL の OMG 活動を技術本部の共通業務として位置づけ行った。
- (3) JASA としてガンダム・グローバル・チャレンジを積極的に取組むこととし、プラットフォーム研究会で企画をつくり、応募した。
- (4) 次年度の予算審議を行った。

安全性向上委員会

1. 活動概要

委員会は 4 月から翌年 3 月にかけて原則第3金曜日に計 10 回開催した。その内一回は 9 月伊豆合宿、また一回はプラットフォーム研究会と合同で開催した。

なお、5 月からはメンバー増加により従来の JASA 会議室では収容できないことが多く会員各社の好意により、会議室の提供を受けた。

IPA からの申し出により共同研究を 5 月から正式に開始した。外部との正式な共同研究は初めてである。

また、2015 年度からは情報セキュリティ研究会を別途ワークグループ(WG)として立ち上げることとした。

2. 活動詳細

定例委員会では主に年初からのメインテーマである SSQ(Safety, Security, & Quality) の深掘りを継続して行った。

同時に今年度の技術本部メインテーマであるロボットについて、生活支援(パーソナル・ケア)ロボットの国際安全規格「ISO 13482」を調査研究するロボット分科会を立ち上げた。同規格の講師たることを第一の目標としている。同分科会は定例の委員会とは別に、会員会社の会議室にて月一回の勉強会を開催した。その経過を委員会で発表した。

また 9 月の合宿では、SSQ やロボットの安全に関して、集中的に調査研究を行った。

11 月 ET2014 にて、以下の発表を行い概ね好評であった。

- ・能登委員が技術本部セミナーにて SSQ に関する研究成果の発表を行った。

- ・発表タイトル『要求の仕様化に関するプロセスと手法』

- ・JASA ブースにて中村委員が発表をした。

- ・発表タイトル『安全制約の仕様化～安全性向上委員会の紹介～』

同じく ET2014 にて、IPAとの共同研究による以下の成果を発表した。

- ・IPA セミナーにて IPA との「障害原因診断 WG」の発表を兼本委員(会津大学教授)が WG の主査として行った。
発表タイトル『モデルベースアプローチに基づく障害原因診断手法』
 - ・IPA ブースにて中村委員が「障害原因診断 WG」の発表を行った。
発表タイトル『システム障害原因診断～要求仕様検証マップ～』
 - ・IPA ブースにて漆原委員長が「障害原因診断 WG」の発表を行った。
発表タイトル『システム障害原因診断～要求仕様の階層化と証明によるアプローチ～』
- IPA との共同研究には委員会として、兼本(主査)、金田(副主査)、漆原、中村以下 7 名が参加している。

CMSiS は 6 月名古屋にて車載ソフト開発会社へのプレゼンを行った。

3. 活動成果

・成果発表

ET2014 での各発表は概ね好評であったが、特に能登委員の SSQ に関する講演『要求の仕様化に関するプロセスと手法』は満席の聴講者を集めた。

・IPA 共同特別分科会

障害原因診断 WG の調査研究の成果をプレス発表した。日経 BP 社に取り上げられ、テクノロジーオンラインで概要を閲覧可能であり、報告書の詳細は IPA ホームページにて公開されている。

・SSQ:3年間の活動の集大成として 150 ページ近い報告書が完成した。現在公開準備中である。

・ロボット分科会:国際安全規格「ISO 13482」に関する各メンバーによる知見が蓄積しつつある。

・委員会活動には常時 20 名前後出席している。

技術高度化委員会

OSS 活用 WG

1. 活動概要

OSS(オープンソースソフトウェア)を日本の組込み分野で安心して使用できる仕組みづくりを目指し、議論と啓発活動を行っている。また、26 年度より技術本部の方針に沿い、国内外のロボット用 OSS の発展、活用にも注力する。

主メンバーは JASA および OSS コンソーシアムの有志、弁護士、ライセンスチェッカーの大手で構成している。

JASA:アックス、クレスコ、アルパイン(26 年度末退会)、TIS

OSSC:チャンスラボ、デジタルヒュージテクノロジ(DHT)、サイバーコム、日本システム開発など
大堀弁護士、ブラックダックソフトウェア平野氏

2. 活動経緯

2014 年 7 月 17 日 開催チャンスラボ社

新活動 初回

ブラックダックより今後の方針検討用の資料提供ならびに当面の進め方について提案を戴いた。
大堀弁護士を囲んで、OSS ライセンスの基本的な問題について懇談をした。

2014 年 8 月 19 日 開催チャンスラボ社

今後の活動方針を具体的に決めた。

2014 年 9 月 16 日 開催チャンスラボ社

大堀弁護士より、OSS ライセンスについての講義をいただき、質疑応答。
メンバーの OSS ライセンスへの理解を深めた。

2014 年 10 月 21 日 開催チャンスラボ社

ブラックダック平野氏、大堀弁護士、出席者、ユーザから出た事例等を知識として蓄積することを確認した。

セミナー開催の具体的な打ち合わせを実施した。

2014年11月18日 開催チャンスラボ社

クレスコ社から、川上系中小企業に対して OSS 使用のヒアリングした結果の報告を頂いた。

中小企業層ユーザの意識がまだまだ硬いという共通認識を得た。

2014年11月27日 開催

OSS コンソーシアム 組込み部会と共同で無料セミナー開催した

2014年12月1日 開催 DHT 社

川上系企業の OSS 仕様意識の調査結果報告を頂き議論

2015年1月20日 開催チャンスラボ社

川上系企業の OSS 仕様意識の調査結果報告を頂き議論

2015年2月17日 開催チャンスラボ社

2015年3月17日 開催チャンスラボ社

3. 活動成果

3-1 意識調査

委員会メンバーにより、中小のソフトウェア開発会社の意識調査を引き続き行っている
ヒアリングの結果

- 本来、自分たちが受注して開発すべき領域の仕事を OSS が奪うのではないか、という
市場奪取懸念の存在
- OSS を採用するときの、品質の基準が無いのが困る
- OSS に問題があった時の対処方法が不明などの問題意識を持っていることが明らかになった。

上記のような、懸念を持っている会社であっても、発注側から、OSS 使用を指定されることが増加しており、OSS 採用における問題を座視できない時代になっている。

3-2 OSS セミナーの実施

OSS ライセンスの認識を高めるための無料セミナーを、OSS コンソーシアム組込み部会と共同で開催し、日本の OSS ライセンスの識者を招いて、講演頂いた

タイトル:「最新 OSS ライセンス動向 2014」について

開催日時:2014年9月27日 13:30~

場所:日立ソリューションズ(品川) HALL B,C,D

講演1 吉田様(日立ソリューションズ)

講演2 金様(ブラックダックソフトウェア)

講演3 大堀弁護士(GPL 等ライセンスに関する講演多数登壇)

講演4 八田真行様(GPL 日本語訳)

聴講事前申込: 44名

実際の参加:36名(会員 13名/非会員 23名)

4. 今後の予定

これまで、OSS ライセンス問題に対する懸念に注目していたが、市場奪取懸念、品質基準問題などの存在が、明らかになった。OSS 採用は、中小企業であれ、避けられない問題である。

H27 年度は、新たに解った問題を掘り下げ、各方面での OSS 採用のハードルを下げるための、情報収集と、啓発活動を行う。

また、ロボット用 OSS の普及、発展、活用の普及活動も行う。産総研などを始めとし、ロボットや自動運転の開発者との交流も積極的に行う予定である。

なお、会合は、2015年4月以降は第3火曜日、隔月開催の予定。

実装品質強化 WG

H26 年度は活動なし

状態遷移設計研究会

1.活動概要

状態遷移設計研究会は、状態遷移設計の漏れ抜けに気づきやすい、という特性を持つ状態遷移表を広く普及、定着させることを目的に活動している。

H25 年度より「状態遷移表のリバースモデリングへの適用」という新たなテーマで活動している。

このテーマは、派生開発が主流となっている組込みソフトウェアの開発において既存システムのブラックボックス化により、コードの解析や機能追加などが困難な状態となっている現状を踏まえ、レガシーコードをリバースエンジニアリング手法により解析し、状態遷移の部位を抽出し、状態遷移表を作成するプロセスを研究するものである。

2.定例会議および関連する活動

4月4日 第1回:研究会顧問愛媛大学:柳原先生を交え、リバース手順等を議論
「デザインパターン概要と組込みシステムへの適用」のレクチャー。
リバース手順の正当性の検証方法。

5月14日 第2回:各種議論を実施
デザインパターンのリバースへの取り込み方式を議論
技術本部成果報告のレビュー。
ツール開発に関するサポイン申請の是非を議論。

5月21日 技術本部成果報告会:最優秀賞を受賞した

6月11日 第3回:ツール化に関するサポイン申請検討
事業管理機関の体制準備と投資、事業化計画間に合わず申請を断念。

7月16日 第4回 ET-WEST2014 講演準備。

7月30日 ET-WEST2014:JASA セミナー講演
講演タイトル「状態遷移表のリバースモデリングへの適用」
・43名受講

8月6日 第5回 公開資料を例題として用いる可能性の検討
SESSAME で公開されている「話題沸騰ポット」のSTM化レビュー。

9月17日 第6回 例題可能性の検討等
スパンションセミナーの資料を用い、リバースモデルサンプル検証を実施した。
スロットマシーン、MediaPlayerにおいて状態の持ち方に関してのレビューの有効性を再確認。
リバースモデリングのFPGA設計(VHDL)への拡張に対する検討を実施
HW 研究会小西委員長を通じて資料を展開

10月15日 第7回 ET2014 セミナー準備&パネル作成、レビュー。
STM 化パターン(状態変数の階層化、演算パターン、代入、関数呼び出し、並列状態)の検証。

10月16日 静岡大学、野口先生／塩見先生訪問

本研究会の活動、取組を説明。enPiT/emb、名古屋大学の事業を紹介して頂いた。

今年度活動が停滞している、ツール開発をH27年度のenPiT/embのテーマとして申請し産学連携での推進を再計画することを決断した。

11月12日 第8回 ET2014準備

第7回に引き続きSTM化パターンの検証を行った。

11月19日～21日 ET2014

「状態遷移表のリバースモデリングへの適用」を技術本部発表会およびJASAブースプレゼンにて、3日間にわたり紹介し、合計で聴講者102名、アンケートを72通回収した。また会場で名古屋大学 大学院情報科学研究所 enPiTプロジェクトマネージャ、館 研究員とenPiT連携に関して懇談。

12月3日 技術本部会議にて、リバースモデリング技法のツール化を、enPiTにて産学連携で行うことが承認された。

12月10日 第9回リバースモデリングガイドラインの検討。

12月25日 名古屋大学、館先生訪問

活動取組を説明し enPiT 応募の詳細を検討した。

2月15日 技術本部会議、H27年度活動予算の説明、ヒアリング

2月18日 第10回 H27年度予算と活動計画、スケジュールの検討

3月11日 H27年度活動計画＆スケジュールの検討

3月16日 顧問の愛媛大学柳原先生を訪問し、H26年度の活動状況およびH27年度活動計画の報告。

3. 状態遷移設計研究会の活動紹介、広報活動

技術本部成果報告会で最優秀賞

ET-WEST2014で技術本部セミナーおよびパネル展示を実施

ET2014で技術本部セミナー、ブースプレゼンおよびパネル展示を実施。

宮城県産業協会セミナーで状態遷移設計手法を紹介

独)高度ポリテクセンターにて状態遷移設計手法を紹介

4. 活動成果

「状態遷移表のリバースモデリングへの適用」原理をサンプルにより検証した。

5. 今後の予定

①enPiT/embによる、プロトタイプツールの作成。

②ツールによるリバースプロセスの検証バリエーションの拡充。

③プロセスガイドの公開。

④成果のオープン化として、賛同企業への出張セミナーや出張コンサル活動を推進する。

モデルベース開発・検証研究会

H26年度は活動なし

応用技術調査委員会

技術セミナーWG

1. 活動概要

H26 年度を通じて、3 回の JASA/ET セミナーと、国際ロボットカンファレンス、業界研究セミナーを開催した。

2. 活動詳細

セミナー運営/企画の検討会議を 10 回開催した

- 4月 23 日 当年度セミナー案の洗い出し。
オープンソース関連と機能安全関連の開催を決定。
日経 BP とのロボットカンファレンス共催の検討を開始。
- 5月 28 日 日経 BP との打合せ報告
機能安全セミナー(2回実施)とオープンソースセミナーの講師選定
- 6月 24 日 ロボットカンファレンスの日程決定
機能安全、オープンソースの日程と開催場所決定
- 7月 23 日 機能安全セミナー(1)の報告
ロボットカンファレンスの当日役割分担
- 8月 20 日 ロボットカンファレンス直前詳細打合せ
機能安全(2)の日程決定。講師案検討
- 9月 25 日 ロボットカンファレンス報告と振りかえり
オープンソースセミナー延期決定
機能安全セミナー(2)の詳細決定
ET での業界研究セミナー 講師決定
- 11月 6 日 機能安全セミナー(2)結果報告
オープンソースセミナー詳細検討
- 12月 17 日 H27 年度事業計画策定
- 1月 21 日 オープンソースセミナー当日役割分担
来年度セミナー案
- 2月 10 日 セミナーの集客方法について討議

3. 活動成果

通常の JASA/ET セミナー3回と、日経 BP との共催で「国際ロボットカンファレンス 2014」を開催した。

・「機能安全対策講座その1～リスク評価は難しくない」

日時／場所:7月 10 日／東実健保会館第一会議室

講演内容

「ISO26262 の最新動向と機能安全を考慮したプロセス構築の勘所」

ビジネスキューブ・アンド・パートナーズ株式会社 内山氏

「機能安全設計に必要とされる定量的リスク評価」

九州工業大学 川原氏

「リスク評価ツールの使い方事例」

株式会社構造計画研究所 田口氏

参加人数:合計 30 名強(一般参加 22 名 + 安全性向上委員会 10 名程度)

- ・「国際ロボットカンファレンス 2014 ~ロボットと人の共生へ道筋を探る~」

日時／場所:8月 29 日／JA 共催ビル カンファレンスホール

講演内容

「人とロボットの未来」

大阪大学 石黒氏

「浸透する人工知能ロボット技術:第三次ロボットブームは本物か?」

ソニーコンピュータサイエンス研究所 北野氏

「人型ロボットのための制御ソフトウェア『V-Sido』」

アステック 吉崎氏

「Autonomous Data Machines」

米 Knightscope 社 William Santana Li 氏

「スーパー飛行ロボットを目指したミニサーバイバーの現在と未来」

千葉大学 野波氏

参加人数:合計 128 名(一般 109 名、JASA 会員 9 名、招待客 10 名)

- ・「機能安全対策講座その2～機能安全実現に向けて、現場で役に立つ設計手法～」

日時／場所:10月 7 日／東実年金会館 3F 会議室

講演内容

「機能安全設計手法 概要」

株式会社レンタコーチ 中村氏

「現場で役立つ設計開発プロセス・ツール」

日本アイ・ビー・エム株式会社 竹市氏

「形式手法を用いた機能安全設計～B メソッドを中心に～」

株式会社アトリエ 水口氏

「安全設計の検証へのテストツールの活用方法」

ガイオ・テクノロジー株式会社 竹内氏

参加人数:合計 17 名(有料参加者 11 名 + 安全性向上委員会 6 名)

- ・「学生と教育関係者向け業界研究セミナー

～モノづくりを支える組込み業界／ET をもっと知ろう！～」

日時／場所:11月 19 日／ET2014 会場パシフィコ横浜 アネックスホール F201

講演内容

「組込み企業の若手技術者の就職活動と入社後の成長」

イーソル株式会社 鈴木氏

「新卒を早期に戦力化させる、日本システム開発株式会社の教育」

日本システム開発株式会社 船戸氏

「業界・企業が求める人材像とは～求められる技術スキルと教育の課題～」

株式会社グレープシステム 宮下氏

「若手組込み技術者の教育を目的とした ET ロボコンの活用紹介」

ET ロボコン実行委員会 星氏

参加人数:51 名

- ・「オープンソースはおいしい

～オープンソース導入・利用・再利用メリットとグローバル日本企業事例～」

日時／場所:H27 年 2 月 17 日／東実年金会館 4F 会議室

講演内容

「オープンソースソフトウェアの活用と開発貢献－企業経営の視点から－」

島根大学 丹生氏

「オープンソースソフトウェアの基本知識と勘どころ」

株式会社 SRA 山口氏

「オープンソースを「おいしく頂く」ための 7 つのヒント」

ブラック・ダック・ソフトウェア株式会社 金氏

「ネットワークビジネスにおけるオープンソースとのつきあい方」

富士通株式会社 余越氏

参加人数:56 名

4. 今後の活動予定

引き続き、広報委員会の活動と連携しつつ、JASA のプレゼンスを高めるためのセミナー開催を行っていく。

開催テーマは、世間の要求に応えるものと JASA 技術本部での活動成果を組み合わせて検討する。集客方法についても議論を深め、慎重に検討する。

プラットフォーム研究会

1. 活動概要

H26 年度も昨年度に引き続き、次世代の共通基盤となる技術や考え方を探求し、具体的にロボットのプラットフォーム(PF)について深堀を行うとともに、成果を一般に公開することを目的として活動を行った。具体的には、昨年度に公表した OpenEL 1.1 についてさらなる調査・研究を進め、OpenEL 2.0 の仕様を検討した。また、OpenEL を国際標準とするために米国を拠点とする世界的な標準化団体である OMG(Object Management Group)の技術会議に参加し、Robotics-DTF 共同議長兼 Hardware Abstraction Layer WG 議長として HAL4RT(Hardware Abstraction Layer for Robot Technology)の平成 27 年度中の標準化を目指して活動を継続している。

2. 活動経緯

1) 会議

- 5月 15日 (木) 第1回ロボットWG、研究会の開催
- 5月 21日 (水) JASA 技術本部成果発表会で発表(優秀賞を受賞)
- 6月 13日 (金) 第2回ロボットWG、研究会、勉強会の開催
講 師 : アスラテック株式会社 吉崎 航氏
講演タイトル : 「V-Sido OS」の紹介
- 7月 17日 (木) 第3回ロボットWG、研究会、勉強会の開催
講 師 : 東京都立産業技術高専 堀 滋樹氏
講演タイトル : 「レスキュー ロボットコンテスト」の紹介
- 8月 22日 (木) 第4回ロボットWG、研究会、勉強会の開催
講 師 : 芝浦工業大学 菅谷みどり氏
講演タイトル : 「ロボット用プラットフォーム」の紹介
- 9月 25日 (木) 第5回ロボットWG、研究会、勉強会の開催
講 師 : DFX Institute:河井研介氏
講演タイトル : 私のシニア安全運転術
- 10月 31日 (金) 第6回ロボットWG、研究会、勉強会の開催
講 師 : 第一精工株式会社 松本栄志氏
講演タイトル : ロボット向けデバイスの紹介
- 11月 27日 (木) 第7回ロボットWG、研究会、勉強会の開催
- 12月 18日 (木) 第8回ロボットWG、研究会の開催
- 1月 22日 (木) 第9回ロボットWG、研究会、ガンダムグローバルチャレンジ WG の開催
- 1月 27日 (火) ハードウェア委員会との第1回 OpenEL 勉強会

- ・ 2月 19日 (木) 第10回ロボットWG、研究会、ガンダムグローバルチャレンジWGの開催
- ・ 2月 27日 (金) ハードウェア委員会との第2回OpenEL勉強会
- ・ 3月 20日 (金) 第11回ロボットWG、安全性向上委員会との合同委員会の開催

2) 合宿の開催(4月17日～18日)

- ①平成25年度活動のまとめ
- ②平成26年度事業計画の詳細検討
- ③技術本部成果発表会資料作成

3) 技術セミナーWGおよび日経BPと共同でカンファレンスを開催

- ・8月29日(金):国際ロボット・カンファレンス2014

講師:

大阪大学 大学院基礎工学研究科 システム創成専攻 教授 石黒浩氏
 ソニーコンピュータサイエンス研究所 代表取締役社長、所長 北野宏明氏
 千葉大学 特別教授 自律制御システム研究所 代表取締役 野波健蔵氏
 アスラテック チーフロボットクリエータ 吉崎航氏
 ソフトバンクロボティクス Pepper プロジェクト 開発リーダー 林要氏
 Aldebaran Robotics 日本統括総責任者 谷崎敦氏
 米 Knightscope 社 Chairman and CEO William Santana Li 氏
 早稲田大学 理工学術院 教授 尾形哲也氏
 経済産業省 製造産業局 産業機械課 課長補佐(ロボット政策担当) 岡本健太郎氏

4) OpenELの普及・啓発

- ・11月19日(水):ET2014 ロボットセッションで発表
講演タイトル:「ロボット技術における国際標準化の動向」
- ・11月19日(水):JASA 技術本部セミナーで発表
講演タイトル:「日本発の国際標準を狙う次世代のロボット開発プラットフォーム OpenEL」
- ・11月19日(水)～21日(金):ET2014 JASA ブースにて発表およびポスター、デモ展示
講演タイトル:「日本発の国際標準を狙う次世代のロボット開発プラットフォーム OpenEL」
- ・12月16日(火):計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会(SI2014)での論文発表
論文タイトル:「ロボット向けハードウェア抽象化レイヤーOpenEL の国際標準化」

5) OpenELの国際標準化

- ・6月16日(月)～20日(水):OMG 技術会議(米マサチューセッツ州ボストン)に出席
Robotics-DF 全体会議および Hardware Abstraction Layer WG の開催
HAL4RT の RFP(仕様提案依頼)文書のレビュー、アーキテクチャ委員会において HAL4RT RFP の正式発行を提案、決議
- ・9月15日(月)～17日(水):OMG 技術会議(米テキサス州オースチン)に出席
Robotics-DF 全体会議および Hardware Abstraction Layer WG の開催
HAL4RT の RFP(仕様提案依頼)文書への LOI(意思表明書)の確認(JASA と米 OIS 社)
- ・10月23日(木)～24日(金):ISO TC184/SC2/WG10 会議(大阪府門真市)に出席
OpenEL の紹介および OMG HAL4RT の ISO 化の提案
- ・12月8日(月)～12日(金):OMG 技術会議(米カリフォルニア州ロングビーチ)に出席
Robotics-DF 全体会議および Hardware Abstraction Layer WG の開催
HAL4RT の RFP(仕様提案依頼)文書に対し、JASA が提出した初期提案のプレゼンテーションおよびレビュー
- ・3月23日(月)～26日(木):OMG 技術会議(米バージニア州レストン)に出席
Robotics-DF 全体会議および Hardware Abstraction Layer WG の開催
HAL4RT の RFP(仕様提案依頼)文書に対し、JASA が提出した二次提案のプレゼンテーションおよびレビュー

3. 活動成果

JASA 技術本部成果発表会において、OpenEL 1.1 を広く一般に公開、発表した。OpenEL 1.1 でモータのパラメータの設定や設定値の取得を導入したことにより、ロボットメーカおよび部品ベンダにとってより使いやすい仕様となり、実用化により一步近づいた。

OMG (Object Management Group)において、Robotics-DTF および Hardware Abstraction Layer WG で OpenEL の標準化プロセスを進めた。7月には、HAL4RT の RFP(仕様提案依頼)文書が OMG より正式に一般公開され、12月に初期提案を3月に二次提案を提出した。

国際ロボット・カンファレンス 2014 を開催し、国内外のキーパーソン及び 100 名以上の参加者に対して OpenEL の紹介を行うことができた。

計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会(SI2014)で論文発表および講演を行い、約 30 名に OpenEL を紹介することが出来た。

ハードウェア委員会と共同で JASA が推奨する OpenEL 対応のハードウェアプラットフォームの開発に向けて勉強会を開催した。

安全性向上委員会との合同委員会では、サービスロボットの安全規格である ISO13482 について幅広い知識を得ることが出来た。

ET2014 ロボットセッション、JASA 技術本部セミナーおよび JASA ブースにおいて、100 名以上の参加者に OpenEL を紹介することができた。

引き続き、国際標準を獲得するために OpenEL 2.0 の仕様策定および OMG での標準採択に向けて活動を継続している。

4. 今後の予定

日本国内のロボットおよび部品メーカーに対する仕様策定作業への協力依頼

世界中のロボットおよび部品メーカーに対する OMG の Hardware Abstraction Layer WG への協力依頼

国内研究会 WG 会議と合宿の実施 年 10 回以上

OMG の国際会議出席 年 4 回

ISO の国際会議出席 年 2 回

ハードウェア委員会

1. 活動概要

WG1「ものづくり技術者の育成」と WG2「新技術の調査」の二つのWGにて議論を進め、WG1 は近年求められている技術者の感性をどのように育成すべきか、活用できる教育ツールは存在するのかを探った。

WG2 では、あらゆる制御機器やロボットに求められる要素技術は何かを探った。次年度より、範囲の絞り込みと具現化を進める。

2. 活動詳細

1)会議

平成26年	4月 9日	第 1	定例会 ものづくり技術者の育成
	5月 13日	第 2	定例会 ものづくり技術者の育成
	6月 10日	第 3	定例会 ものづくり技術者の育成
	7月 8日	第 4	定例会 WGの設置と内容について
	9月 9日	第 5	定例会 ものづくり技術者の育成
	10月 7日	第 6	定例会 ものづくり技術者の育成、新技術の調査
	11月 11日	第 7	定例会 ものづくり技術者の育成、新技術の調査
	12月 9日	第 8	定例会 ものづくり技術者の育成、新技術の調査
平成27年	2月 3日	第 9	定例会 ものづくり技術者の育成、新技術の調査
	3月 10日	第 10	定例会 ものづくり技術者の育成、新技術の調査

2)JPCA2014出展 東京ビッグサイト
6月 6日～8日 出展 JASAの紹介と案内および各企業製品展

3)講習会&意見交換会

- 7月 8日 ルネサスエレクトロニクス殿“SmartAnalog”講習と意見交換会
- 1月 27日 プラットフォーム研究会“OpenEL”講習と意見交換会
- 1月 28日 組込みシステム業界の発展と技術者の育成シンポジウム」参加
- 2月 19日 プラットフォーム研究会参加
- 2月 20日 企業訪問 株式会社ホロンクリエイト
- 3月 10日 ルネサスエレクトロニクス殿“RZ/T1”講習と意見交換会

3. 活動成果

WG1では、多くの議論と研修を経て、これから「ものづくり技術者」に最も必要とされる教育は、イノベーションや価値を創造する「感性」にあると結論づけた。

WG2では、今後のあらゆる電子機器に搭載される、センサーやモーターを制御する回路基板の試作を通して、OpenELの推奨ハードウェアやロボット、制御機器の技術要素を探る活動方針を決定した。

4. 今後の活動予定

年10回の定例会議、研修会、企業訪問を通して、教育と技術調査の実検証を行い、あるべき姿を導き出していく。

ET事業本部

ET実行委員会

組込み業界を牽引するイベントとしてET2014を開催した。

今回のコンセプトテーマとして「IoTでビジネスが変わる！組込み技術が進化する！」と銘打ち IoT時代における組込み技術とIoT技術の最新動向、また今後の更なる応用分野の拡大を訴求した。併せて、関連企業による「IoTゾーン」を設けるとともに、カンファレンスにて「IoTトラック」を新設し、ビジネスの可能性や最新の技術動向等を3日間に渡り実施した。

また、前回まで併催していたEDA関連イベントを継承するため、ハードウェア開発技術と製品群を集約した「EDAゾーン」並びに「EDA関連トラック」を新設し、設計・開発技術者に向け情報発信した。

優れた製品・技術・ソリューションを選出・顕彰する「ET Award」は、今回応募54件より、審査委員会の厳正な選考の下、IoTテクノロジー賞:1件、先端テクノロジー賞:2件、審査員特別賞:1件、JASA特別賞:1件、計5件の受賞製品を選出した。

開催結果としては、来場者は前回より1,000名強程の増加。プロファイルとして、大きな変化ではないが、業種で「SI、ソフトウェア・システムハウス」の来場及びカンファレンス受講者の割合が増加している。

また、来場の96%強から「来場した成果が有った」と回答を得、関心度の高さが伺える結果となった。

また、出展効果としては、65%以上の企業から「期待以上・期待通り」と回答を得ることができ、成果が見込まれる結果となつた。

<開催概要>

名	称	： Embedded Technology 2013／組込み総合技術展
会	期	： 2014年11月19日(水)～21日(金) 10:00～17:00 (21日Festa開催 18:00)
会	場	： パシフィコ横浜 展示ホール・会議センター・アネックスホール
主	催	： 一般社団法人 組込みシステム技術協会(JASA)

企画・推進：株式会社 ICS コンベンションデザイン
展示規模：出展社数：364社・団体 小間数：756小間
来場者数：22,507名
カンファレンス：127セッション 受講者数：12,615名
特設ゾーン：IoTゾーン、EDAゾーン、設計開発サービスゾーン、
産学連携推進パビリオン、ベンチャービレッジ
企画イベント：ETアワード、ETフェスタ、開会式／レセプション
併催行事：ETロボコンチャンピオンシップ大会
併催セミナー：グローバルフォーラム、技術本部セミナー、業界研究セミナー
IPAセミナー、組込みマルチコアサミット、他

<会議・委員会の開催>

ET2014企画立案及びカンファレンス構築のための企画WG会議。開催概要・実施要領等に関して実行委員会を開催した。

また、ET2014の方針・テーマ等開催概要の発表・紹介として、メディア関係者を対象としたプレス発表会の開催。海外からの企業誘致と来場プロモーションとして、台湾でのETセミナーを実施した。

平成26年	3月 9日	企画WG会議
	5月 8日	台湾ETセミナー
	5月 30日	企画WG会議
	6月 12日	企画WG会議
	7月 17日	企画WG会議
	8月 5日	企画WG会議
	8月 20日	企画WG、査読会
	8月 26日	企画WG、査読会
	8月 27日	第1回実行委員会
	9月 2日	ET出展説明会(パシフィコ横浜)
	9月 3日	プレス発表会(サンケイプラザ)
	9月 30日	企画WG会議
	10月 22日	ETアワード1次選考／企画WG会議
	10月 30日	ETアワード最終選考会
	11月 13日	正副委員長会議
平成27年	1月 23日	第2回実行委員会
	2月 4日	正副委員長会議
	3月 13日	企画WG会議
	3月 26日	台湾ETセミナー

ETWEST 実行委員会

関西唯一の組込みシステム技術と関連製品・ソリューションのイベントとして開催した。
近畿支部が中核となり、経産局、関連機関等との連携により、関西地域の特色を生かした展示会とカンファレンスを企画・運営し、広く西日本における関連産業の発展に寄与した。
前回に引き続き、エネルギー、システム開発の専門展「Smart Energy Japan inOsaka (SEJ)」との同時開催により、スマートエネルギー分野をも捉えた展示とカンファレンスを構成・展開。
今回より会場を交通至便な大阪駅北口「グランフロント大阪」に移したこともあり、過去最高となる6,132名(同時展含む)の来場者を迎えることが出来た。

<開催概要>

名 称 : Embedded Technology West 2014／組込み総合技術展 関西
会 期 : 2014年7月29日(火)・30日(水)10:00～17:00
会 場 : グランフロント大阪コンベンションセンター
主 催 : 一般社団法人 組込みシステム技術協会
企 画 ・ 推 進 : 株式会社 ICS コンベンションデザイン
展示規模出展社数 : 129社・団体 小間数 : 185小間
来 場 者 数 : 6,132名
カンファレンス : 50セッション 受講者数 : 4,211名
同 時 開 催 : SMART ENERGY JAPAN 2014 IN Osaka
後 援 : 近畿経済産業局、大阪府、大阪市、京都府、滋賀県、奈良県、
兵庫県、和歌山県、情報処理推進機構
協 賛 : 公益社団法人関西経済連合会、組込みシステム産業振興機構、
大阪商工会議所、一般財団法人関西情報センター、
近畿情報システム産業協議会、一般財団法人大阪科学技術センター、
公益財団法人大阪市都市型産業振興センター、
一般社団法人電子情報技術産業協会 関西支部、
公益財団法人大阪産業振興機構、新世代M2M コンソーシアム

<会議・委員会の開催>

ET WEST2014 運営要領とカンファレンス構築、並びに次回 2015 開催に向けた企画等のため、実行委員会及び企画会議を開催した。

平成 25 年	12 月	6 日	第 1 回実行委員会・企画会議
平成 26 年	2 月	18 日	第 2 回実行委員会
	4 月	24 日	第 3 回実行委員会・査読会
	5 月	13 日	企画会議
	5 月	20 日	ET West2014 出展説明会
	6 月	20 日	テキスト査読会
	9 月	12 日	第 4 回実行委員会
	11 月	20 日	企画会議
平成 27 年	1 月	9 日	企画会議
	1 月	22 日	企画 mtg
	2 月	6 日	ETW2015 実行委員会
	3 月	20 日	ETW2015 査読会

VI 支部活動報告

北海道支部

H26 年度活動なし

東北支部

1. 事業概要

東北支部としては、他地域・産業団体との交流、情報交換を更に活発化させ、ET 展示会等のビジネスマッチングの場を活用して地元企業の強みを情報発信することで、東北地域における組込み産業の振興に貢献することができた。

また、支部独自の事業として、組込み画像処理関連の市場動向・ニーズを調査発掘し会員企業とのマッチングを促進する組込み画像処理ビジネス研究会を推進。会員企業の技術シーズをもとに協業先などのコーディネートを積極的に展開。また、知能情報フェスタを開催して、東北地域や首都圏の企業等から広く来場者を集客することで、会員企業の保有シーズを周知すると共に、当協議会事業の PR に繋げることができた。

2. 会員の異動状況

期首支部会員数は、正会員 12、支部会員 3 社の合計 15 社であった。期中に正会員 1 社が退会し、期末合計は、正会員 11 社、支部会員 3 社の合計 14 社となった。

	正会員	支部会員	賛助会員	計
26 年・4 月	12	3	0	15
27 年・3 月	11	3	0	14

3. 事業実績

1. 支部会議

(1) 平成 26 年度東北支部会議

日時 平成 26 年 6 月 13 日(金) 15:00～17:00

場所 ヤマコールホール 7 階「701」

参加 会員 10 名、東北経済産業局 課長 柏様、IPA/SEC 杉崎様

内容 ① 平成 25 年度事業報告案、収支決算案の報告

② 平成 26 年度事業・予算案の報告

③ 次回オープンセミナー事業で取り上げたいテーマ、講師について協議

④ IPA/SEC より IPA/SEC セミナーの紹介

(2) 第 8 回支部会議

日時 平成 26 年 10 月 10 日(金) 15:30～17:00

場所 TKP ガーデンシティ仙台 21 階「カンファレンスルーム A」

参加 会員 9 名、東北経済産業局 小山田様、JASA 本部事務局 母里様

内容 ① 平成 26 年度事業報告案、収支決算案の報告

② 今後の事業計画について

③ 組込み画像処理ビジネス研究会の状況報告

- (3) 第9回支部会議
日時 平成26年11月20日(金) 13:30~15:30
場所 パシフィコ横浜 会議センター3階「313」
参加 会員10名、東北経済産業局 大友様
内容 ① 平成26年度事業報告案、収支決算案の報告
② 今後の事業計画について
③ 来年度の事業活動と年会費について
- (4) 第10回支部会議
日時 平成26年12月12日(金) 13:30~14:45
場所 宮城県庁 6階「震災復興・企画部会議室」
参加 会員11名、東北経済産業局 小山田様
内容 ① 平成26年度事業報告案、収支決算案の報告
② 今後の事業計画について
③ 来年度の事業計画と年会費について
④ みやぎ高度電子産業振興協議会への入会について
- (5) 第11回支部会議
日時 平成27年2月9日(月) 13:00~14:00
場所 ホテルルイズ盛岡 3階「青海の間」
参加 会員8名、東北経済産業局 柏課長様、小山田様、事務局
内容 ① 平成26年度事業報告案、収支決算案の報告
② 今後の事業計画について
③ 平成27年度年会費について

2. 組込み画像処理ビジネス研究会

- (1) ビジネス交流会
- ① 平成26年6月13日(金) 13:00~14:30 / 参加者9名 ヤマコーホール
組込み画像処理ビジネス研究会の設立に向け、理事会への提案内容について出席者と意見交換を行った。
- ② 平成26年7月14日(月) 15:00~17:00 / 参加者10名 東杜シーテック(株)
組込み画像処理ビジネス研究会設立に伴い、今後の活動の方向性について出席者と意見交換を行った。
- ③ 平成26年8月26日(火) 13:00~14:30 / 参加者24名 TKP仙台勾当台
今後の取り組み進め方やマシンビジョン研究会(青木孝文教授:会長)との連携について、出席者と意見交換を行った。また、東北支部会員より青木孝文教授に対して企業紹介プレゼンを実施した。
- ④ 平成26年9月26日(金) 15:00~17:00 / 参加者11名 東杜シーテック(株)
ビジネス化を見据えたプロジェクトを立ち上げるにあたり、会員各社がターゲットとしたい分野と活動体制について意見交換を行った。また、3月の展示発表に向けて、現状と今後のスケジュール等について情報共有を行った。
- ⑤ 平成26年10月27日(金) 15:00~17:00 / 参加者9名 みやぎ健診プラザ
みやぎ健診プラザを訪問し館内設備等を視察。医療・福祉分野が抱える課題やニーズ等について情報交換を行った。

- ⑥ 平成 26 年 11 月 20 日(金) 15:00～16:00 ／ 参加者 11 名 パシティコ横浜会議センター
現在までの活動経過報告および、今後の指針について意見交換を行った。また、3 月展示発表会のコンセプト等について検討を行った。
- ⑦ 平成 26 年 12 月 12 日(金) 15:00～16:00 ／ 参加者 11 名 宮城県庁
現在までの活動経過報告および、今後の活動指針について参加者間で認識合わせを実施した。また、3月展示会の企画・準備状況について報告を行った。
- ⑧ 平成 27 年 1 月 28 日(金) 10:00～12:00 ／ 参加者 5 名 仙台フィンランド健康福祉センター
仙台フィンランド健康福祉センターを訪問し、福祉・ヘルスケア分野が抱える課題やニーズ等について意見交換を行った。

(2) 出前コンサル

- ① 平成 26 年 10 月 31 日(金) 14:00～17:00 ／ 参加者 13 名 東北大学青葉山キャンパス
これまで事務局が市場調査してきた医療・福祉分野の課題・ニーズを青木孝文教授に報告し、今後の取り組み指針について指導いたたくと共に、会員との意見交換を行った。また、青木教授より画像処理技術の応用事例について紹介をいただき、その後、青木研究室内の画像処理技術デモの見学を行った。
- ② 平成 26 年 12 月 22 日(月) 14:00～16:00 ／ 安川情報エンベデッド様
会員企業の安川情報エンベデッド様を企業訪問。青木先生より同社の画像処理ニーズについてコンサルティングを実施し、今後の取り組みについて方針決めを行った。
- ③ 平成 27 年 3 月 26 日(月) 10:30～12:00 ／ 東北大学青木副学長室
会員企業の NCE 様が青木副学長室を訪問。青木先生より同社の組込み・制御システムのニーズについてコンサルティングを実施し、今後の取り組みについて方針決めを行った。

(3) 個別マッチング

- ① 平成 27 年 1 月 28 日(水) 15:00～16:30 ／ みやぎ健診プラザ様内
みやぎ健診プラザ様とコア東関東カンパニー様との個別マッチングを実施。コア様の医療関連システムの製品・サービスの紹介を行い、今後の取り組み方針について両社で認識合せを行った。
- ② 平成 27 年 2 月 17 日(火) 14:00～15:00 ／ 宮城県内企業の訪問
安川情報エンベデッド様が保有する画像処理ニーズの協業先企業として、青木先生よりヒアリングを受けた宮城県内企業との個別マッチングを実施。今後の取り組み方針について両社で認識合せを行った。

(4) 知能情報フェスタ 2015 in SENDAI(展示発表会)

日時 平成 27 年 3 月 27 日(金) 10:30～18:30 ※17:00～交流会
場所 東北大学さくらホール
参加 一般来場者:107 名、出展者:43 名、関係者:28 名、交流会:61 名
内容 ① 基調講演
・「自然言語処理から見える知能情報技術の近未来」
　　講師:東北大学大学院 情報科学研究科 教授 乾 健太郎 氏
② 企業プレゼン
・『画像からの高精度形状復元技術開発とその適用事例紹介』
　　講師:凸版印刷株式会社 総合研究所 基盤技術研究所
　　　　　上級リーダー研究員 運天 弘樹 氏

・『Industry 4.0「ORiN で繋がる IPC 設備事例』』

講師:株式会社デンソーウェーブ 制御システム事業部 技術企画部
技術企画室 課長 澤田 洋祐 氏

・『こんなところにも NEC? ~物体指紋、顔認識などなど、画像・

映像を使った最新技術!~』

講師:日本電気株式会社 研究企画本部 企画創造グループ
エキスパート 田谷 紀彦 氏

③ テーブルトーク

コーディネータ:東北大学大学院 情報科学研究科 教授 青木 孝文 氏

④ 展示会:20企業・団体によるICT関連製品・デモの展示

(5) 企業・団体およびイベント訪問

下記の企業・団体およびイベントに事務局(コーディネーター含む)が訪問し、業界動向や市場ニーズ等について調査を行った。

- ① 平成 26 年 9 月 30 日(火) / (公財)仙台市産業振興事業団
- ② 平成 26 年 10 月 1 日(水) / みやぎ健診プラザ(医療法人 仁泉会)
- ③ 平成 26 年 10 月 2 日(木) / 宮城県産業技術総合センター
- ④ 平成 26 年 10 月 3 日(金) / 株エンジニア・サイエンス
- ⑤ 平成 26 年 10 月 6 日(月) / 仙台フィンランド健康福祉センター
- ⑥ 平成 26 年 10 月 14 日(火) / (公財)仙台シルバーセンター
- ⑦ 平成 26 年 10 月 21 日(火) / 知と医療機器創生宮城県エリア
- ⑧ 平成 26 年 10 月 23 日(木) / 宮城県情報産業振興室
- ⑨ 平成 26 年 10 月 28 日(火) / 富士通㈱東北支社
- ⑩ 平成 26 年 10 月 28 日(火) / 健幸サイエンスパーク岩沼・宮城県岩沼市
- ⑪ 平成 26 年 11 月 20 日(火) / ET2014・パシフィコ横浜
- ⑫ 平成 26 年 11 月 20 日(火) / 新価値創造展・東京ビックサイト
- ⑬ 平成 26 年 11 月 25 日(火) / 宮城県新産業振興課

3. オープンセミナー

(1) 第7回講演会

日時 平成 26 年 8 月 26 日(火) 15:00~17:00

場所 TKP ガーデンシティ仙台勾当台 3 階「ホール 3」

参加 85 名(会員 43 名／一般 41 名)

講演 ① 「組込み画像処理ビジネス研究会への期待

～“画像なら東北！”を目指して～」

講師:東北大学大学院情報科学研究科 教授 青木 孝文 氏

② 「Web技術の今後の展望」

講師:グーグル(株) シニアエンジニアリングマネージャ 及川 卓也 氏

(2) 第8回講演会

日時 平成 27 年 2 月 9 日(月) 14:30~17:30

場所 ホテルルイズ盛岡 3 階「万葉の間」

参加 38 名(会員 15 名／一般 23 名)

講演 ① 「スマートセンサーネットワークへの取組み」

講師:アルプス電気株式会社 技術本部 第2商品開発部部長 神田 幹雄 氏

② 「空間的にシームレスな局所的通信システム」

講師:岩手県立大学 ソフトウェア情報学部 准教授 新井 義和 氏

③ 「IPA 技術セミナーの紹介」

講師:IPA/SEC 研究員 杉崎 真弘 氏

4. オープン技術セミナー

- (1) 定量データによるITプロジェクトの「見える化」
- 日時 平成26年12月6日(土) 13:15～17:00
場所 ハーネル仙台 6階「ふじ」
参加 22名(会員7名／一般15名)
講義 ①「データに基づくITプロジェクト管理」
②「ソフトウェア開発定量データ活用の基礎」
③「定量的プロジェクト管理ツールの導入と活用法」
- (2) 小規模開発組織と品質課題
- 日時 平成27年3月21日(土) 13:15～17:00
場所 ハーネル仙台 5階「いちょう」
参加 6名(会員5名／一般1名)
講義 ①小規模開発組織の品質課題がなぜ重要なか
②国際動向とVSE規格概説
③VSE規格の活用方法と活用メリット

5. 国内見学会

- (1) 仙台見学・視察会
- 日時 平成26年8月27日(水) 9:00～16:00
参加 24名(東京支部1名／近畿支部会員15名／東北支部会員8名)
訪問先 下記の場所に訪問し、最新研究施設の観察および被災地区の現状について見学を行った。
①宮城復興パーク
・次世代移動体システム研究プロジェクト(東北大)
- ・技術研究組合制御システムセキュリティーセンター東北多賀城本部
②閑上の記憶(津波被災地区)

6. ET2014事業

- (1) ETロボコン2014東北地区大会
- 日時 平成26年9月20日(土) 10:30～17:30
場所 岩手県民情報交流センター(アイーナ)
内容 本田副支部長が東北地区大会に参加し、開会式で主催者挨拶を行った。
開会式後は、閉会まで大会運営の支援を図った。
- (2)組込み総合技術展(ET)2014
- 日時 平成26年11月18日(火)～21日(金)
場所 パシフィコ横浜
内容 TOHOKUパビリオン運営サポートおよびJASAパンフレットの配布を行った。
訪問者数 TOHOKUパビリオン内【2014年】4,704人／【2013年】5,841人
ET2014全体 【2014年】22,507人／【2013年】21,485人

7. ビジネスマッチング

- (1) アルプス電気様向け「組込み技術出張展示会」(共催:JASA東北支部)
- 日時 平成27年2月24日(火) 10:30～17:30
場所 アルプス電気株式会社 古川工場
出席 10社(会員4社)
内容 •セミナー(東北大大学IIS研究センター)／ミニ企業プレゼン(4社)
•展示会
•個別面談

- (2) ビジネスマッチング in 仙台(共催:JASA 東北支部)
日時 平成 27 年 2 月 27 日(金) 10:30～17:30
場所 仙台ガーデンパレス
出席 22 社(会員 3 社)
内容 •講演会(富士重工業株式会社／萩原電気株式会社)
•展示会
•個別面談(富士重工業株式会社／萩原電気株式会社)
- (3) ビジネスマッチング in いわき(共催:JASA 東北支部)
日時 平成 27 年 3 月 17 日(火) 11:00～16:30
場所 アルパイン株式会社 いわき
出席 16 社(会員 3 社)
内容 •展示会
•個別面談

8. その他、事務局活動

- (1) ソフトウェアシンポジウム 2014 東北
日時 平成 26 年 5 月 31 日(金) 13:00～19:30
場所 エル・ソーラ仙台 28 階「大研修室」
協賛 組込みシステム技術協会
内容 最新のソフトウェアテスト事例について情報収集するとともに、
JaSST'14 Tohoku 実行委員会との情報交流を図った。
- (2) 宮城県情報サービス産業協会
① 日時 平成 26 年 6 月 12 日(木) 16:00～19:45 ／ パレスへいあん
内容 「総会」に参加し会員企業・事務局との情報交流を図った。
② 日時 平成 27 年 1 月 15 日(木) 15:00～18:30 ／ パレスへいあん
内容 「賀詞交歓会」に参加し、会員企業・事務局との情報交流を図った。
- (3) みやぎ組込み産業振興協議会「理事会・総会」
① 日時 平成 26 年 7 月 18 日(金) 14:30～20:30 ／ TKP 仙台カンファレンスセンター
内容 「総会」に参加し会員企業と事務局との情報交流を図った。
- (4) とうほく組込み産業クラスタ「平成 26 年度 総会」
① 日時 平成 26 年 9 月 29 日(月) 15:00～19:15 ／ PARM-CITY131 ANNEX 館
内容 「総会」に参加し会員企業と事務局との情報交流を図った。
- (5) マシンビジョン研究会Ⅱ
① 日時 平成 27 年 11 月 10 日(月) 14:00～17:30 ／ TKP 仙台カンファレンスセンター
内容 「第 1 回研究会」に参加し会員企業・講師との情報交流を図った。
② 日時 平成 27 年 1 月 27 日(木) 14:00～17:35 ／ TKP ガーデンシティ仙台勾当台
内容 「第 2 回研究会」に参加し会員企業・講師との情報交流を図った。

東京支部

1. 事業概要

東京支部は、組込み技術の普及啓発を事業の柱に、人材育成、会員間交流活性化を推進し、協会の核としての役割に努めている。

東京支部ワーキンググループが事業の推進役として機能し、協会活動の活性化に貢献している。下記活動テーマのもと、さらなる新規会員獲得に向けた企画を推進する。

- ① 会員間交流活性化、② 最新動向の提供、③ 商談機会創出、④ 人材育成

2. 会員の異動状況

期首 支部会員数は、正会員 95 社、支部会員 3 社、賛助会員 29 社の合計 127 社

期中において正会員 12 社、賛助会員 2 社の入会があつた。

	正会員	支部会員	賛助会員	計
26 年 4 月	95	3	29	127
27 年 3 月	107	3	29	139

3. 事業実績

(1) 会議

➤ 東京支部ワーキンググループ

各支部事業の内容・企画を検討し、支部事業の円滑な運営に努めた。

・ 4 月 15 日	(火)	17:00～18:15	エヌデーデー18 階プレゼンルーム
・ 5 月 20 日	(火)	17:00～19:00	ユークエスト ミーティングルーム
・ 6 月 17 日	(火)	16:00～18:00	コア 第二ビル 2 階会議室
・ 7 月 15 日	(火)	16:00～18:00	JASA 会議室
・ 8 月 19 日	(火)	16:00～18:00	日本ノーベル 会議室
・ 9 月 16 日	(火)	16:00～18:15	日本システム開発 会議室
・ 10 月 21 日	(火)	16:00～17:40	エヌデーデー4 階会議室
・ 11 月 11 日	(火)	16:00～17:50	エンベックス 11 階会議室
・ 12 月 16 日	(火)	17:00～18:50	日本システム開発 会議室
・ 1 月 20 日	(火)	16:00～17:45	コア第二ビル 2 階会議室
・ 2 月 17 日	(火)	15:55～17:45	日本ノーベル 2 階会議室
・ 3 月 17 日	(火)	16:20～18:00	JASA 会議室

(2) 支部会議、例会

➤ 支部例会(第一部:例会/講演会 第二部:交流会)

・日時:平成 26 年 5 月 29 日(木)13:30～19:30

【第一部 例会/講演会】13:30～17:20 参加者:45 名

・会場 :TKP 渋谷ガーデンシティ・ホール B

・次第

● 平成 25 年事業報告・平成 26 年度事業計画紹介

● 平成 25 年度収支内訳書・平成 26 年度収支予算紹介

● 講演会 1

「IoT 時代に備えよう、Android セキュリティ技術」

松並 勝 氏／一般社団法人日本スマートフォンセキュリティ協会

セキュアコーディンググループ リーダー

ソニーデジタルネットワークアプリケーションズ株式会社

- 講演会 2
「クラウドの最新動向と将来」
山谷 正己 氏／ジャストスキル社長
- 新入会員紹介
 - (1) 株式会社ビー・メソッド
 - (2) 株式会社 COSMO LINK PLANNING
 - (3) 株式会社富士通コンピュータテクノロジーズ

【第二部 交流会】 17:45～19:30 参加者:44名

・会場:THE THEATRE TABLE

- 支部例会(第一部:講演会 第二部:納涼懇親会)
 - ・日時:平成 26 年 8 月 29 日(木)
 - 【第一部】 14:30～17:20 参加者:55 名
 - ・場所:東実年金会館 4 階 会議室
 - ・次第
 - 講演会 1
「新規事業は楽しく、面白く！～ソニーフロー新規事業創出術～」
横野 滋 氏／株式会社イーフォーシーリンク 代表取締役社長
 - 「企業と知的財産」
波多江 重人 氏／東京都知的財産総合センター 所長
 - 新入会員紹介
 - (1) アクサス株式会社 システムインテグレーション事業部
 - (2) 株式会社永栄
 - (3) ハートランド・データ株式会社
 - 会員企業新製品&サービス紹介
株式会社ギガ 「ネットワークの監視カメラセット」のご紹介

【第二部 納涼交流会】 17:45～20:15 参加者:50 名
- 支部例会(第一部:講演会 第二部:忘年会)
 - ・日時:平成 26 年 11 月 28 日(金) 14:00～19:30
 - 【第一部 講演会】 14:30～17:30 参加者: 39 名
 - ・場所:TKP 赤坂ツインタワー カンファレンスセンター ホール 10A
 - ・次第
 - 平成 27 年度事業計画・予算案について
 - 講演会 1「新規事業の立ち上げについて」
山口 秀二 氏／クルートレイン株式会社
 - 講演会 2「これからの組込みソフトウェア開発」
井上 樹 氏／株式会社豆蔵 技術コンサルティング事業部 主幹コンサルティング
 - 新入会員企業紹介
 - (1) 株式会社エリック・アンド・アンディ
 - (2) 株式会社トーメン エレクトロニクス
 - (3) IAR システムズ株式会社
 - (4) ACCEL Japan 株式会社
 - 会員企業の製品&サービス紹介
 - (1) 株式会社クナイ

【第二部・忘年会】 17:30～19:30 参加者:50 名

・会場 :ザ・レギヤン・クラブハウス赤坂
 - 支部例会(第一部:会議・講演会 第二部:忘年会)
 - ・日時:平成 27 年 2 月 26 日(木) 14:30～19:30
 - 【第一部 会議・講演会】 14:30～17:30 参加者: 70 名

- ・場所:東実年金会館 4 階 会議室
 - ・次第
 - 支部長あいさつ
 - 新支部長あいさつ、平成 27 年度事業計画案紹介
 - ・平成 27 年 4 月 1 日より、「関東支部」へ改称
 - ・支部長交代:下山到氏(日本ノーベル株式会社)就任
 - 講演会 1「IoT のセキュリティ」
 - 松岡 正人 氏／株式会社カスペルスキー
ビジネスデベロップメントマネージャー
 - 講演会 2「平成 27 年度東京都中小企業施策のトピックス」
 - 清水 郁男 氏／東京都中小企業振興公社
総合支援部取引振興課 課長
 - 講演会 3「経済産業省の情報関連施策等について」
 - 久世 尚史 氏／経済産業省関東経済産業局 情報政策課 課長
 - 新入会員企業紹介・会員企業新製品&サービス紹介
 - (1) 株式会社ルネサス イーストン
 - (2) エヌ・ティ・ティ・ソフトサービス株式会社
「Web 改ざん検知サービス」紹介
- 【第二部・交流会】 17:30～19:30 参加者:53 名
- ・会場 :東実年金会館 3 階会議室

(3) 各種セミナー

- 平成 26 年度 フレッシャーズセミナー
 - ・日時:4 月 3 日(木)～4 日(金) 9:00～17:00(計 14 時間)
 - ・場所:東実年金会館 4 階会議室
 - ・参加者: 10 社 52 名
 - ・内容:
 - ・ビジネスマナー(講義・実習)1.5 日
講師:株式会社オイコス メンター 大坪 隆志 氏
 - ・「組込みシステム入門講座」 0.5 日
 - ・「組込みの世界、こんな話、あんな話」
講師:株式会社クナイ 星 光行 氏
 - ・「新入社員に求められる組み込みシステムの基礎知識」
講師:株式会社グレープシステム 宮下 光明 氏
- 若手社員のための 社会人基礎力講座
 - ・日時:4 月 7 日(月)～8 日(火)9:00～17:00(計 14 時間)
 - ・場所:東実年金会館 3 階会議室
 - ・参加者: 2 社 16 名
 - ・対象者:入社 1～3 年目位の若手社員
 - ・講師:株式会社スキルメイト 宇野 和彦 氏
- 若手社員のための 社会人基礎力フォローアップ講座
 - ・日時:7 月 8 日(火)9:30～16:30
 - ・場所:JASA 会議室
 - ・参加者: 16 名
 - ・対象者:4/7～8 参加者
 - ・講師:株式会社スキルメイト 宇野 和彦 氏

- IT 業界に必要とされる接遇セミナー
 - ・日時:10月 29日(水) 9:00～18:30
 - ・場所:東実年金会館 4階 会議室
 - ・参加者:13社/23名
 - ・講師: 株式会社 JTB コーポレートソリューションズ 増田 和芳 氏

(4) その他 交流会

- 異業種交流ボウリング大会
 - ・日時:10月 9日(木)19:00～22:00
 - ・場所:品川プリンスホテル ボウリングセンター
 - ・参加者:21名(男性:13名 女性:8名)
 - ・内容: ボウリングと懇親会を実施

中部支部

事業概要

会員に魅力のある活動をめざし、一味違う内容とした。例えば、従来台湾を訪問していた海外視察では、参加者に訪問国や企業を議論して決めてもらい、ポスト中国といわれるベトナムを訪問することになった、展示会はもとより、地元企業や大学の訪問では英語での参加会社の紹介や先方の研究内容紹介するミーティングを設定し、海外ビジネスの一端を経験できた。また、アジャイル研究会ではアドバイザーを招いて、研究活動の充実やプレゼンスキルの向上などがはかれ、その成果をETWESTとET展で発表した。技術セミナーでは他団体と共に開催することで、独自では中々集めることのできない講師陣を準備でき、貴重な講演を提供できた。

今後もさらに会員に魅力あるJASA 中部としての活動を工夫していく。

事業実績

1. 支部会議・懇親会

日時 平成26年5月30日(水) 16:00～20:00
場所 ザ サイプレス メルキュールホテル 名古屋
参加人数 支部会議 12名
懇親会 27名 (中堅管理職研修参加者も含む)

支部会議 (16:00～16:30)

議事

1. 平成25年度事業・会計報告の件
2. 平成26年度事業・予算報告の件

講演 (16:50～17:50)

「自動車業界の現状と展望」

三井住友アセットマネジメント 次長 神手 昭博様

懇親会 17:00～20:00

・冬季支部会議

日時 12月8日 5時より会議 6時より懇親会

場所 名鉄グランドホテル 「四季」

来年度予算検討を議題とし、その後忘年会を兼ねた懇親会を実施

支部会は 12名参加

懇親会は 28名参加

2. セミナー

・技術セミナー

第1回

開催日 10月14日(火)開場 13時30分 開演 14時～

開催場所 ウインクあいち

講演I 14時～15時15分

「機能安全で必要なトレーサビリティ管理に対する
支援ツールの紹介」

講師 株式会社 ヴィッツ 部長 森川 聰久氏

講演II 15時30分～16時45分 「システム開発を加速する仮想環境」

講師 メンター・グラフィックス・ジャパン株式会社
マネージャー 山口 克氏

参加者 23名

セミナー後懇親会実施

第2回 ESD21と共に

「日本のモノづくりの強みをソフトウェア開発へ」

日時 3月10日(火) 13時～17時

場所 ウインクあいち

テーマと講師

「ソフト開発の TPS/Lean/Agile」 ESD21 会長 黒岩 恵
「日本のものづくりの強み・弱みと組込みソフトウェア開発」

名古屋大学大学院情報科学研究科教授 高田広章氏

「機能安全が示す摺り合わせ反復設計」

アイシン・コムクルーズ(株)技術統括部技監 鈴村延保氏

「日本型すり合わせ開発の国際標準化(採択決定!)」

電気通信大学大学院情報システム研究科助教 松野 裕氏

「騙されるな! Agile と Scrum の本質」

株式会社 Odd-e Japan<認定スクラムマスター> 江端一将氏

「車載システム製品へのコンカレント開発の適用」

(株)デンソー 走行安全技術4部 林 健吾氏

参加者101名

セミナー後懇親会実施 40名以上が参加

・マネジメントセミナー 中堅管理者研修と合同開催

第1回 「めげない部下を育むセルフコーチング入門」

講師 アルボット株式会社 ディベンダブルシステム事業部 穴田 啓樹 様

日時 平成26年7月24日(水)14:00～17:00

場所 東桜会館

参加者 15名(中堅管理職研修参加者も含む)

セミナー後懇親会実施

第2回 「インドIT産業の高付加価値化とマネジメントの新展開—MOTの観点から—」

講師 名古屋工業大学 准教授 徳丸 宜穂 様

日時 11月21日(金) 2時30分～

場所 東桜会館

参加者 17名

セミナー後懇親会実施

第3回 「組織の知を結集する～リーダーに求められるもの～」
講 師 名古屋大学大学院 経済学研究科 准教授 犬塚 篤 様
日 時 3月3日(火) 2時30分～4時40分
場 所 東桜会館
参加者 18名
セミナー後懇親会実施

- ・高齢者雇用推進セミナー
 - 日 時 12月8日(月)2時から4時半
 - 場 所 ウインクあいち
 - 講演1 高齢者雇用推進の手引きについて
 - 講演2 iコンピテンシ・ディクショナリについて

3. 観察

海外観察

初めての試みとして、7月8日(火)～13日(日)にベトナムのチキンシティとハノイを訪問し、展示会、大学、日系企業や現地企業を訪問し情報交換を行った。今回も昨年と同様、会員外企業2社が参加して名実ともに公益事業となった。

国内産業観察

11月7日から8日まで金沢大学の山根研究室と菅沼研究室を訪問。

山根研究室では3名の大学院生の研究発表を聞き、議論を行った。菅沼研究室では自動運転の動向の話を聞いた後、実際の自動車を見学

菅沼先生は2月 日本初めての公道の自動走行を実施

4. アジャイル研究会

毎月第2水曜日に参加各社の会議室を借用して開催(12回開催)

組込みシステムとしてのアジャイル手法の利点、課題などを挙げ参加企業での実務に照らし合わせ、事例や改善手法など検討している。

5月の技術本部発表会、ETWest、ETで成果を発表、ETではJASAブースで2回発表

5. ポーリング大会

日 時:平成26年10月21日(火) 午後6時30分

場 所 スポルト名古屋

参加者 55名

6. 定例会

第1回

日 時 5月9日 15時～17時

場 所 三幸電子株式会社 会議室

出席者 9名

・26年度活動計画の説明

第2回

日 時 8月7日 15時～17時

場 所 三幸電子株式会社 会議室

出席者 9名

・かんぽ生命による「かんぽの養老保険を活用した、法人の財務強化のご案内。最新活用術。」
の説明

・後半の活動予定などを検討

北陸支部

1. 北陸支部会議の開催

7月22日(火)午後6時から 北陸支部例会を開催した。

平成25年度の事業報告・決算報告、平成26年度の事業計画・収支予算及び会員増強・視察研修についての具体策等の検討を行った。

2. 観察研修

国内先進企業の組込み技術の動向について視察研修及び意見交換を行い、会員企業の技術向上に資した。

実施時期:平成26年11月27日(木)、11月28日(金)

研修企業:理化学研究所 計算科学研究機構…スーパーコンピュータ 京

富士通周辺機(株)…スマホ製造ライン

参 加 数:会員企業6社6名、非会員企業1社1名

3. 技術講習会の開催

組込みセキュリティに関する技術者講習会を開催した。

・内容:セキュアに“繋がる”製造・設計講座

「新たな脅威に向けた知的財産・セキュリティへの取組み」

・主催:近畿経済産業局及び中部経済産業局

・共催:JASA北陸支部

・開催日時:平成26年7月24日(木) 10:20～17:00

・開催場所:福井県産業情報センター

・参加者数:21名

なお、本講習会は、7月25日(金)に石川県地場産業振興センターでも開催し、会員勧奨も合わせて実施した。

4. 名義後援

・JASA北陸支部に対し、名義後援の要請があり承諾した。

事業名:ふくいITフォーラム2014

主催:福井県IT産業団体連合会

開催期間:10月16日(木)、17日(金)の2日間開催

開催場所:福井県産業会館1号館

来場者数:18, 950名

5. その他

他団体の役員会等への参加

(1) (一社)福井県情報システム工業会理事会へ参加し、意見交換等を行った。

①4月10日(木)

・総会基調講演として「組込みセキュリティ」に関する演題・講師等を紹介した。

講師:株ユビテック ユビキタス研究所 伊藤 公祐 氏

演題:広がるコネクテッドデバイス・本当に大丈夫?

②5月23日(金)

・「農業分野に関する基本技術研修」実施についての意見交換を行った。

③7月17日(木)

・7月24日開催の「組込みセキュリティに関する技術講習会」への参加要請をおこなった。

④9月18日(木)

・福井工業大学が実施する「産学連携講座」への講師派遣を依頼した。

・福井県経済団体連合会主催の「福井県産業界サマースクール」への参加要請を行った。

⑤11月10日(月)

・キャリア形成促進助成金活用研修の参加要請と説明会を実施した。

・福井県が主催する「ウェアラブルシンポジウム」への参加要請を行った。

⑥11月14日(金)

・(一社)福井県情報システム工業会理事会が主催する視察研修に参加した。

(石川県立大学及びいしかわサイエンスパーク)

⑦12月11日(木)

・オープンデータ活用に関する研究会の立ち上げを提案し、具体策について次回以降検討することとした。

⑧2月26日(木)

・キャリア形成促進助成金活用研修の参加状況について報告した。

28年度の実施については、27年度の実施状況を鑑みて検討する。

・福井県情報システム工業会の総会の基調講演の主題について「IoT関連」を提案した。

(2)福井県IT産業団体連合会役員会へ参加し、意見交換等を行った。

7月31日(木)

・「ふくいITフォーラム2014」開催について。

・ふくいソフトコンペティション2014開催について。

(3)福井県経済団体連合会主催事業への参加

①11月21日(金)

・知事を囲む経団連・商議連 合同会議に出席し、最近の情勢等の意見交換を行った。

②2月6日(金)

・知事を囲む経団連首脳懇談会に出席し、県内の情勢等の意見交換を行った。

近畿支部

1. 支部会議

支部会議(1) 平成 26 年支部会議

「日時」4月 23 日(水)14:00～14:50

「場所」大阪産業創造館 6 階 会議室 A

「出席者」23 名

「議題・内容」1. 平成 25 年度事業報告及び決算 2. 平成 26 年度事業計画及び予算

3. 会員増強について

〈講演会〉

「出席者」27 名

「内容」「経営者向けメンタルヘルスセミナー」

講師: 株式会社クリエイティブ・コミュニティサービス

臨床心理士 吉岡富美子氏

〈交流懇親会〉

「場所」大阪産業創造館 16 階 レストラン スターアイル

「出席者」28 名

支部会議(2)

「日時」5月 28 日(水)14:30～15:00

「場所」大阪産業創造館 6 階 会議室 D

「出席者」21 名

「議題・内容」総務、市場ワーキンググループ活動動向、ET West 2014 進捗状況報告

近畿情報システム産業協議会ビジネスカンファレンス案内

〈近畿経済産業局・情報政策課との意見交換会〉

「内容」情報政策課・石原課長「イノベーションと組込み産業への期待」

〈5月会員月例会〉

「内容」安田株式会社・坂本勝信氏「指紋認証システムについて」

支部会議(3)

「日時」7月 11 日(金)16:30～17:00

「場所」京都工業会館 2 会議室

「出席者」18 名

「議題・内容」総務、市場、技術ワーキンググループ活動動向、ET West 2014 進捗状況報告

近畿情報システム産業協議会ビジネスカンファレンス報告、社員総会報告

支部会議(4)

「日時」9月 24 日(水) 14:00～14:30

「場所」大阪産業創造館 6 階 会議室 D

「出席者」21 名

「議題・内容」総務、技術ワーキンググループ活動動向、ET West 2014 報告、仙台視察研修報

告、ET ロボコン 2014 関西地区大会報告、秋の特別セミナー懇親会案内、中小企業基盤整備機構「J-Goodtech」について、本部理事会報告

〈9月会員月例会〉

「内容」新入会員の有限会社中野情報システム、株式会社ワイズ・ラブ、株式会社ルナネクサスより会社及び事業概要の紹介

〈近畿経済産業局・情報政策課との意見交換会〉

「内容」情報政策課・横井課長補佐「経済産業省の情報関連政策について」

支部会議(5)

「日時」11月 26 日(水) 15:30～16:00

「場所」大阪産業創造館 6階 会議室 D

「出席者」20名

「議題・内容」総務、技術ワーキンググループ活動動向、秋の特別セミナー及び懇親会報告、

近畿情報システム産業協議会新春 IT 振興フォーラム並びに賀詞交歓会案内、

高齢者雇用推進セミナー案内

〈近畿経済産業局・情報政策課との意見交換会〉

「内容」情報政策課・石原課長「新しいビジネスモデルについて議論しましょう」

～IoT/IoE やスマートヘルスケア分野の可能性について～

支部会議(6)

「日時」2月 25 日(水) 14:30～16:00

「場所」大阪産業創造館 6階 会議室 D

「出席者」21名

「議題・内容」総務、市場、技術ワーキンググループ活動動向、平成 27 年度支部事業計画報告

及び予算案について、近畿情報システム産業協議会賀詞交歓会報告、近畿情報

システム産業協議会ビジネスカンファレンス案内

〈近畿経済産業局・情報政策課との意見交換会〉

「内容」情報政策課・吉田企画係長「平成 27 年度経済産業省施策のご紹介」

2. 各種セミナー

※第 1 回市場開発・技術交流フォーラム

「日時」6月 26 日(木)10:00～16:00

「場所」太洋工業株式会社、紀州技研工業株式会社

「出席者」14名

「内容」太洋工業株式会社、紀州技研工業株式会社見学

※第 2 回市場開発・技術交流フォーラム

「日時」7月 11 日(金)15:00～16:30

「場所」株式会社たけびし

「出席者」16名

「内容」たけびしフェア見学

※第 1 回総務交流フォーラム

「日時」7月 18 日(金)15:30～17:00

「場所」大阪産業創造館 6階 会議室 C

「出席者」13名

「内容」「生命保険の基本 パート 2」

講師:ジブラルタ生命保険株式会社 佐藤式香氏

※第 1 回近 JASA セミナー

「日時」7月 29 日(火)、30 日(水)10:00～17:00

「場所」グランフロント大阪 コングレコンベンションセンター

「出席者」延べ 11 名

「内容」ET West 2014 テクニカルセッション受講

※第 2 回近 JASA セミナー

「日時」8月 29 日(金)14:00～16:00

「場所」大阪産業創造館 5階 研修室 E
「出席者」26名
「内容」「組込みの世界に影響を与えるエンタープライズ iOS」
講師:株式会社フィードテイラー 代表取締役 大石裕一氏

※第3回近JASA秋の特別セミナー
「日時」10月22日(水)15:00～17:00
「場所」大阪産業創造館 5階 研修室 E
「出席者」50名
「内容」「なぜか人に好かれる、人付き合いを学ぶ！
～人の持つ基本的な欲求」セルフエステームとは～」
講師:株式会社ビジネスコンサルタント 高田正晴氏

※第3回近JASA秋の特別セミナー懇親会
「日時」10月22日(水)18:30～20:30
「場所」ファンタイム ボニーラ
「出席者」79名
「内容」総務・市場・技術各ワーキンググループ合同懇親会

※第2回総務交流フォーラム
「日時」12月11日(木)15:30～17:00
「場所」大阪産業創造館 6階 会議室 C
「出席者」14名
「内容」「知的財産の基礎知識」
講師:特許庁 産業財産権専門官 梶澤道夫氏

※第4回近JASAセミナー
「日時」1月28日(水)15:00～17:00
「場所」大阪産業創造館 5階 研修室 C
「出席者」18名
「内容」「IoTのシステム技術あれこれとET West」
講師:ET West 実行委員会 副委員長 清水 徹氏

※第3回総務交流フォーラム
「日時」3月6日(金)15:30～17:00
「場所」大阪産業創造館 5階 研修室 C
「出席者」13名
「内容」「いよいよスタート！マイナンバー制度
～求められる企業対応と個人情報保護のありかた～」
講師:弁護士法人飛翔法律事務所 弁護士 松村直哉氏

※第3回市場開発・技術交流フォーラム
「日時」3月24日(火)14:30～21:00
「場所」株式会社暁電機製作所
「出席者」20名
「議題・内容」会社概要、事業内容紹介

3. 観察

〈海外〉

「日時」6月4日(水)～7日(土)

「場所」台湾(台北)

「参加者」14名

「目的・内容」Computex Taipei 2014 観察

〈国内〉

「日時」8月26日(火)～27日(水)

「場所」宮城県(仙台市、多賀城市、名取市)

「参加者」15名

「目的・内容」東北支部講演会受講、みやぎ復興パーク及び「闇上の記憶」観察

4. 展示会

「日時」7月29日(火)、30日(水)10:00～17:00

「場所」グランフロント大阪 コングレコンベンションセンター

「来場者数・出展企業」6,132名/129社・団体、185小間

「内容」組込み専門技術展／カンファレンス

5. その他

※新入社員ビジネスマナー研修講座(関西電子情報産業協同組合と共に)

「日時」4月3日(木)、4日(金)9:30～17:00

「場所」大阪産業創造館 5階 研修室D

「参加者」JASAより2社4名

「目的・内容」新卒社員が企業人・社会人として活躍するために、身につけておくべきビジネスマナーに関する基本を習得するため開講

※近畿情報システム産業協議会ビジネスカンファレンス

「日時」6月25日(水)12:40～18:30

「場所」和歌山大学

「参加者」173名(JASAより17名)

「目的・内容」加盟7団体の会員企業が集まり、これまで付き合いがない企業と交流

することにより、新しいビジネスチャンスを創造するため実施

今回は和歌山県のIT企業ならびにユーザー企業とも交流

19社が企業発表を行い、個別面談会も実施

※ET ロボコン 2014 関西地区大会

「日時」9月14日(日)、15日(月・祝)

「場所」京都コンピュータ学院 京都駅前校

「参加者」競技参加者 138名(27チーム)、見学者 101名

「内容」競技会(デベロッパー部門(プライマリークラス、アドバンストクラス)、アーキテクト部門)、モデリングワークショップ

※高齢者雇用推進セミナー

「日時」12月5日(金)14:20～17:00

「場所」大阪科学技術センター B102号会議室

「出席者」25名

「内容」「高齢者雇用推進の手引き」「iコンピテンシー・ディクショナリ」

※KISA 新春 IT 振興フォーラム並びに賀詞交歓会
「日時」1月 9 日(金) 15:00～18:00
「場所」大阪科学技術センター 大ホール、中ホール、小ホール
「出席者」新春 IT 振興フォーラム:224 名(内 JASA24 名)
 賀詞交歓会:228 名(内 JASA23 名)
「内容」 新春 IT 振興フォーラム:
 「ICT 社会の未来」～マイナンバーとビッグデータによる変貌～
 講師:株式会社野村総合研究所顧問(元総務省大臣官房総務審議官)
 吉崎正弘氏

九州支部

1. 支部会議(4月度)

日 時:2014年 4月23日(水) 16:30～18:00
場 所:九州産業技術センター
出席者:門田専務理事、福田支部長、大北副支部長、支部員5名、事務局
議 題:
①報告事項
 ・2013年度予算実績について
②検討事項
 ・2014年度事業計画(スケジュール)及び予算について
③その他
 ・回路設計厳選セミナー2014 in 熊本 後援について

2. ETロボコン2014 九州地区 技術教育 1、2

(運営主体:NPO法人 九州組込みソフトウェアコンソーシアム)
日 時:2014年 5月17日(土)、2014年 6月21日(土)
場 所:九州産業大学 12号館
内 容:

開発環境・要素技術・データロギング
モデル審査基準説明
モデリング教育
モデリング実践トレーニング
モデル実装トレーニング

3. 回路設計厳選セミナー2014 in 熊本 【後援】

日 時:2014年 5月30日(金) 13:30～17:00
場 所:熊本市商工会議所ビル
参加者:60名
内 容:
 高精度／高速データコンバータの性能を最適化する設計技術
 電源 IC 向け設計ツールから学ぶ電源システムの基礎

4. 支部会議(7月度)

日 時:2014年 7月16日(水) 16:30～18:00
場 所:九州産業技術センター
出席者:福田支部長、浅川副支部長、支部員7名、事務局
議 題:

- ①副支部長交代について
- ②ET-West2014について
- ③ETロボコン2014について
- ④協業セミナーのテーマについて
- ⑤その他

5. ETロボコン2014 九州地区大会 試走会1、2

(運営主体:NPO法人 九州組込みソフトウェアコンソーシアム)

日 時:2014年 7月19日(土)、 2014年 8月23日(土)

場 所:九州産業大学 1号館

内 容:

各チーム試走

6. 組込み総合技術展 関西 ETWest2014

日 時:2014年 7月29日(火)～30(水)

場 所:グランフロント大阪内 コングレコンベンションセンター

出席者:浅川副支部長

7. ETロボコン2014 九州地区大会

(運営主体:NPO法人 九州組込みソフトウェアコンソーシアム)

日 時:2014年 9月20日(土)～21日(日)

場 所:九州産業大学 1号館

内 容:

競技会・懇親会

モデリングワークショップ

競技参加者:31チーム(棄権2)125名

デベロッパー部門・プライマリークラス 21チーム(棄権1)79名

デベロッパー部門・アドバンストクラス 8チーム(棄権1)33名

アーキテクト部門 2チーム 13名

九州地区大会成績:

【デベロッパー部門 プライマリークラス】

◇ゴールドモデル

チーム:KTEC (学校法人赤山学園九州技術教育専門学校)

◇競技優勝

チーム:ち～くま (鹿児島大学 工学部 機械工学科応用システム研究室)

◇総合優勝

チーム:Nagomi-z (個人)

◇総合準優勝

チーム:やまけん (鹿児島大学 学術情報基盤センター)

◇総合第3位

チーム:KTEC (学校法人赤山学園九州技術教育専門学校)

【デベロッパー部門 アドバンストクラス】

◇ゴールドモデル

チーム:伊都DVM (九州大学)

◇競技優勝

チーム:DSPシステム部

(九州工業大学 情報工学部 電子情報工学科 黒崎研究室)

◇総合優勝

チーム:DSPシステム部

(九州工業大学 情報工学部 電子情報工学科 黒崎研究室)

◇総合準優勝 <該当なし>

◇総合第3位 <該当なし>

※競技にてゴール完走できたチームはDSPシステム部のみ

他チームはゴールできなかつたため、準優勝、3位は該当無し

【アーキテクト部門】

◇総合優勝

チーム:東海ど～かい！？ (東海大学 基盤工学部)

【IPA賞】

チーム:ありきたり

(熊本大学大学院自然科学研究科情報電気電子工学専攻)

【九州経済産業局 局長賞】

チーム:東海ど～かい！？ (東海大学 基盤工学部)

【地区特別賞】

チーム:さわちゃんず (九州産業大学 情報科学部)

8. 支部会議(10月度)

日 時:2014年10月15日(水)

場 所:九州産業技術センター

出席者:門田専務理事、母里課長代理、福田支部長、浅川副支部長、

支部員4名

事務局

ゲスト ES-Kyushu 富松様

議 題:

①2015年 2月に実施予定の協業セミナーについて

②2015年 1月に実施予定の高齢者雇用推進セミナーについて

③ETロボコン2014九州地区大会結果紹介について

④ET2014見学者募集について

⑤新規入会事業所紹介について

⑥その他

⑦ES-Kyushuの活動内容について(富松様)

9. モノづくりフェア2014（主催：日刊工業新聞社）【協賛】

日 時：2014年10月15日(水)～17(金) 10:00～17:00(最終日は16:00まで)

場 所：マリンメッセ福岡

来場者数：12, 398名

テーマ：

新たな発想と技術で未来の市場を開拓

10. 組込み総合技術展 ET2014

日 時：2014年11月19日(水)～21(金)

場 所：パシフィコ横浜

出席者：浅川副支部長

11. 組込みシステム業における 高齢者雇用推進セミナー

日 時：2015年 1月 8日(木) 13:25～16:00

場 所：JR博多シティ会議室

講 演：

- ①高齢者雇用推進の手引き
- ②iコンピテンシ・ディクショナリ

12. 九州支部会議(1月度)

日 時：2015年 1月 8日(木) 16:30～17:30

場 所：九州産業技術センター

出席者：福田支部長、浅川副支部長、支部員6名、事務局、

議 題：

- ①高齢者雇用推進セミナーについて
- ②協業セミナーについて
- ③平成27年度事業計画・予算案(九州支部)について
- ④次回支部会議について
- ⑤その他
 - ・新年懇親会

13. JASA 九州協業セミナー

「IoT, M2M が拓く、新しいビジネスの世界」【博多開催！】

日 時：2015年 2月20日(金) 14:00～17:45

場 所：JR博多シティ10階 会議室

出席者：50名

講 演：

- ①「IoT がつなぐ家電・住宅・自動車・B2B でのコトづくり」
梶本一夫氏 (パナソニック株)全社 CTO 室 理事)
- ②「最新の M2M の事例とビジネスモデル分析」
菰岡真人氏 (MCPC モバイル M2M 副委員長、KDDI(株)ソリューション事業本部)
- ③「インテルの IoT 戦略とビジネス機会」
永井寿氏 (インテル(株)ソフトウェア&サービス事業開発本部組込み/IoT 担当部長)

14. JASA 九州協業セミナー交流会

日 時：2015年 2月20日(金) 18:00～20:00

場 所：JR博多シティ10階 ぶどうの樹

概 要：講師を交えて立食パーティ

事業報告の附属明細書

平成26年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する

「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないため、附属明細書は作成しない。

平成 26 年度財務諸表

平成 26 年度

財 務 諸 表 等

自 平成 26 年 4 月 1 日
至 平成 27 年 3 月 31 日

一般社団法人 組込みシステム技術協会

目 次

(ページ)

I. 財務諸表

1. 貸借対照表

(1) 貸借対照表	57
(2) 貸借対照表内訳表	58

2. 正味財産増減計算書（損益計算書）

(1) 正味財産増減計算書（損益計算書）	59～60
(2) 正味財産増減計算書（損益計算書）内訳表	61～62

3. 財務諸表に対する注記	63
---------------	----

II. 財務諸表の附属明細書	64
----------------	----

貸借対照表

平成27年3月31日現在

(単位:円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	321,431,522	315,745,324	5,686,198
未収会費	40,000	0	40,000
未収入金	3,676,202	3,485,172	191,030
前払費用	139,987	194,334	△ 54,347
立替金	289,257	194,710	94,547
貯蔵品	182,118	134,158	47,960
貸倒引当金	△ 25,000	△ 22,000	△ 3,000
流動資産合計	325,734,086	319,731,698	6,002,388
2. 固定資産			
(1) 特定資産			
退職給付引当預金	27,873,275	24,820,915	3,052,360
特定資産合計	27,873,275	24,820,915	3,052,360
(2) その他固定資産			
建物附属設備	820,104	975,214	△ 155,110
器具備品	386,594	0	386,594
ソフトウェア	546,000	798,000	△ 252,000
差入敷金保証金	2,202,784	2,202,784	0
電話加入権	324,056	477,656	△ 153,600
その他の固定資産合計	4,279,538	4,453,654	△ 174,116
固定資産合計	32,152,813	29,274,569	2,878,244
資産合計	357,886,899	349,006,267	8,880,632
II 債負の部			
1. 流動負債			
未払金	1,286,748	1,265,863	20,885
未払法人税等	12,374,400	12,995,500	△ 621,100
未払消費税等	3,597,900	1,636,300	1,961,600
前受会費	8,100,000	8,020,000	80,000
前受金	1,356,361	1,140,436	215,925
預り金	437,905	400,750	37,155
流動負債合計	27,153,314	25,458,849	1,694,465
2. 固定負債			
退職給付引当金	27,873,275	24,820,915	3,052,360
固定負債合計	27,873,275	24,820,915	3,052,360
負債合計	55,026,589	50,279,764	4,746,825
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
指定正味財産合計	0	0	0
2. 一般正味財産			
(うち基本財産への充当額)	302,860,310	298,726,503	4,133,807
(うち特定資産への充当額)	(0)	(0)	(0)
正味財産合計	302,860,310	298,726,503	4,133,807
負債及び正味財産合計	357,886,899	349,006,267	8,880,632

※前年度欄の未払法人税等及び未払消費税等は、未払金から組替えて表示している。

貸借対照表内訳表

平成27年3月31日現在

(単位：円)

科 目	実施事業等会計	その格會計	法人会計	内部取引消去	合 計
I 資産の部					
1. 流動資産					
現金預金			321,431,522		321,431,522
未収会費			40,000		40,000
未収入金	1,794,309	1,881,893			3,676,202
前払費用	5,700	100,400	33,887		139,987
立替金	97,640	174,117	17,500		289,257
貯蔵品	4,200	76,808	101,110		182,118
貸倒引当金	△ 12,713	△ 11,901	△ 386		△ 25,000
実施事業等会計			99,970,901	△ 99,970,901	0
法人会計		149,236,195		△ 149,236,195	0
流動資産合計	1,889,136	151,457,512	421,594,534	△ 249,207,096	325,734,086
2. 固定資産					
(1) 特定資産					
退職給付引当預金			27,873,275		27,873,275
特定資産合計	0	0	27,873,275	0	27,873,275
(2) その他固定資産					
建物附属設備			820,104		820,104
器具備品			386,594		386,594
ソフトウェア					546,000
差入敷金保証金	546,000		2,202,784		2,202,784
電話加入権			324,056		324,056
その他固定資産合計	546,000	0	3,733,538	0	4,279,538
固定資産合計	546,000	0	31,606,813	0	32,152,813
資産合計	2,435,136	151,457,512	453,201,347	△ 249,207,096	357,886,899
II 負債の部					
1. 流動負債					
未払金	297,353	214,475	774,920		1,286,748
未払法人税等			12,374,400		12,374,400
未払消費税等			3,597,900		3,597,900
前受会費			8,100,000		8,100,000
前受金		1,356,361			1,356,361
預り金			437,905		437,905
その他会計			149,236,195	△ 149,236,195	0
法人会計	99,970,901			△ 99,970,901	0
流動負債合計	100,268,254	1,570,836	174,521,320	△ 249,207,096	27,153,314
2. 固定負債					
退職給付引当金			27,873,275		27,873,275
固定負債合計	0	0	27,873,275	0	27,873,275
負債合計	100,268,254	1,570,836	202,394,595	△ 249,207,096	55,026,589
III 正味財産の部					
1. 指定正味財産					
指定正味財産合計	0	0	0	0	0
2. 一般正味財産					
(うち基本財産への充当額)	△ 97,833,118	149,886,676	250,806,752		302,860,310
(うち特定資産への充当額)	()	()	()	()	()
正味財産合計	△ 97,833,118	149,886,676	250,806,752	0	302,860,310
負債及び正味財産合計	2,435,136	151,457,512	453,201,347	△ 249,207,096	357,886,899

正味財産増減計算書（損益計算書）

平成26年4月1日から平成27年3月31日まで

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
①特定資産運用益	(6,239)	(5,374)	(865)
特定資産受取利息	6,239	5,374	865
②受取入会金	(0)	(1,500,000)	(△ 1,500,000)
受取入会金	0	1,500,000	△ 1,500,000
③受取会費	(43,210,000)	(44,622,000)	(△ 1,412,000)
正会員受取会費	37,560,000	38,592,000	△ 1,032,000
賛助会員受取会費	5,650,000	6,030,000	△ 380,000
④事業収益	(173,825,985)	(161,583,244)	(12,242,741)
普及啓発等事業収益	128,323,020	130,234,250	△ 1,911,230
その他事業収益	45,502,965	31,348,994	14,153,971
⑤受取補助金等	(4,675,000)	(5,067,652)	(△ 392,652)
受取国庫助成金	4,675,000	4,169,000	506,000
受取民間補助金	0	898,652	△ 898,652
⑥雑収益	(293,415)	(288,646)	(4,769)
受取利息	283,235	273,816	9,419
雑収益	10,180	14,830	△ 4,650
経常収益計	222,010,639	213,066,916	8,943,723
(2) 経常費用			
①事業費			
役員報酬	(157,441,558)	(154,963,655)	(2,477,903)
給与手当	14,771,794	16,300,386	△ 1,528,592
アルバイト料	17,614,376	19,146,633	△ 1,532,257
退職給付費用	89,096	22,274	66,822
退職金共済掛金	2,059,140	2,569,191	△ 510,051
福利厚生費	391,600	410,400	△ 18,800
会議費	5,640,560	6,099,377	△ 458,817
旅費交通費	3,051,632	3,304,488	△ 252,856
通信運搬費	8,591,564	9,742,073	△ 1,150,509
減価償却費	1,339,094	1,380,152	△ 41,058
消耗品費	252,000	252,000	0
印刷製本費	808,470	646,597	161,873
賃借料	4,690,186	3,375,410	1,314,776
支払報酬	6,521,256	6,193,477	327,779
支払手数料	4,618,965	5,174,394	△ 555,429
新聞図書費	158,278	196,319	△ 38,041
水道光熱費	43,286	23,520	19,766
租税公課	437,059	399,354	△ 37,705
会合費	0	142,600	△ 142,600
E D P 費	13,028,842	13,170,168	△ 141,326
調査委託費	543,650	448,929	94,721
広報費	70,566,374	65,040,924	5,525,450
諸会費	1,527,464	540,645	986,819
保険料	567,325	301,920	265,405
雜費	19,550	11,424	8,126
②管理費	(47,848,491)	(41,782,244)	(6,066,247)
役員報酬	7,428,206	5,899,614	1,528,592
給与手当	8,637,815	8,302,715	335,100
アルバイト料	352,500	0	352,500
派遣料	3,755,023	305,156	3,449,867
退職給付費用	993,220	867,919	125,301
退職金共済掛金	168,400	189,600	△ 21,200
福利厚生費	1,832,515	1,146,933	685,582
会議費	1,454,848	1,587,203	△ 132,355
旅費交通費	3,137,977	4,078,709	△ 940,732

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
通信運搬費	349,569	217,860	131,709
減価償却費	1,005,764	536,515	469,249
消耗品費	225,678	155,848	69,830
印刷製本費	402,497	216,033	186,464
賃借料	3,025,632	3,140,880	△ 115,248
支払報酬	3,932,548	4,589,137	△ 656,589
支払手数料	290,401	633,019	△ 342,618
新聞図書費	225,486	256,276	△ 30,790
水道光熱費	189,868	199,250	△ 9,382
租税公課	5,297,150	3,318,300	1,978,850
会合費	2,820,602	3,131,743	△ 311,141
E D P 費	236,178	110,237	125,941
広報費	37,800	81,650	△ 43,850
諸会費	1,542,178	1,220,000	322,178
保険料	242,816	246,998	△ 4,182
貸倒引当金繰入	3,000	2,900	100
雑費	260,820	1,347,749	△ 1,086,929
経常費用計	205,290,049	196,745,899	8,544,150
評価損益等調整前当期経常増減額	16,720,590	16,321,017	399,573
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	16,720,590	16,321,017	399,573
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益	0	0	0
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
①固定資産除却損	(153,600)	(0)	(153,600)
電話加入権除却損	153,600	0	153,600
経常外費用計	153,600	0	153,600
当期経常外増減額	△ 153,600	0	△ 153,600
税引前当期一般正味財産増減額	16,566,990	16,321,017	245,973
法人税、住民税及び事業税	12,433,183	13,052,197	△ 619,014
当期一般正味財産増減額	4,133,807	3,268,820	864,987
一般正味財産期首残高	298,726,503	295,457,683	3,268,820
一般正味財産期末残高	302,860,310	298,726,503	4,133,807
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	302,860,310	298,726,503	4,133,807

※前年度欄の法人税、住民税及び事業税については、租税公課から組替えて表示している。

正味財産増減計算書（損益計算書）内訳表

平成26年4月1日から平成27年3月31日まで

(単位：円)

科 目	実施事業等会計								その他会計			法人会計	内部取引消去	合 計		
	国内外調査事業	技術者育成事業	開発高度化事業	安全・安心事業	技術啓発事業	小計	展示会事業	競技会事業	その他	小計						
I 一般正味財産増減の部																
1. 経常増減の部																
(1) 経常収益																
①特定資産運用益 特定資産受取利息	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(6,239)	(0)	(6,239)	(6,239)		
②受取会費 正会員受取会費 賛助会員受取会費	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(43,210,000)	(0)	(43,210,000)	(37,560,000)		
③事業収益 普及啓発等事業収益 その他事業収益	(2,842,600)	(23,757,927)	(0)	(0)	(1,087,353)	(27,687,880)	(85,000,000)	(43,323,020)	(17,815,085)	(146,138,105)	(5,650,000)	(0)	(0)	(173,825,985)	(128,323,020)	
④受取補助金等 受取国庫助成金	(1,930,299)	(0)	(0)	(0)	(154,175)	(2,084,474)	(0)	(0)	(2,590,526)	(2,590,526)	(0)	(0)	(0)	(45,502,965)	(4,675,000)	
⑤雑収益 受取利息 雑収益	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(3,780)	(3,780)	(0)	(0)	(0)	(293,415)	(283,235)	
経常収益計	4,772,899	23,757,927	0	0	1,241,528	29,772,354	85,000,000	43,323,020	20,409,391	148,732,411	43,505,874	0	0	222,010,639		
(2) 経常費用																
①事業費	(20,164,848)	(27,936,042)	(2,589,433)	(1,488,771)	(9,413,656)	(61,592,750)	(15,392,323)	(43,944,847)	(36,511,638)	(95,848,808)	(0)	(0)	(0)	(157,441,558)		
役員報酬	3,013,925	2,450,630	466,787	233,393	957,701	7,122,436	4,273,460	116,697	3,259,201	7,649,358				(14,771,794)		
給与手当	3,462,726	2,065,440	584,196	300,618	2,316,200	8,729,180	4,768,854	158,440	3,957,902	8,885,196				(17,614,376)		
アルバイト料			89,096			89,096								(89,096)		
退職給付費用	438,627	342,428	57,600	28,800	156,875	1,024,330	695,667	21,746	317,397	1,034,810				(2,059,140)		
退職金共済掛金	104,400	48,000		4,000	44,400	200,800	80,400	2,400	108,000	190,800				(391,600)		
福利厚生費	1,088,850	731,546	155,656	72,263	497,138	2,545,453	1,409,748	42,085	1,643,274	3,095,107				(5,640,560)		
会議費	388,290	1,263	2,069	148,492	478,521	1,018,635	42,372		1,990,625	2,032,997				(3,051,632)		
旅費交通費	4,161,180	621,972	173,578	181,608	1,149,539	6,287,877	1,243,917	1,197	1,058,573	2,303,687				(8,591,564)		
通信運搬費	411,660	100,583	39,574	19,787	121,000	692,604	348,179	6,016	292,295	646,490				(1,339,094)		
減価償却費		252,000				252,000								(252,000)		
消耗品費	102,194	309,016	25,549	12,774	70,259	519,792	132,284	3,194	153,200	288,678				(808,470)		
印刷製本費	2,580,262	115,813	53,774	22,783	127,346	2,899,978	331,124	5,696	1,453,388	1,790,208				(4,690,186)		
賃借料	1,257,894	815,157	864,640	265,038	1,023,504	4,224,233	1,075,590	192,721	1,028,712	2,297,023				(6,521,256)		
支払報酬	325,881	399,930	22,274	91,254	604,619	1,413,958	8,909		3,166,098	3,175,007				(4,618,965)		
支払手数料	8,778	8,226	1,728	1,596	10,274	30,602	2,520	3,780	121,376	127,676				(158,278)		
新聞図書費	1,836			41,450		43,286								(43,286)		
水道光熱費	85,979	54,632	21,495	10,747	59,111	231,964	103,891	2,687	98,517	205,095				(437,059)		
会合費	1,243,227	93,777	42,800	499,958	1,879,762	70,964	64,900	11,013,216	11,149,080					(13,028,842)		
E D P 費	106,948	67,957	26,736	13,368	73,526	288,535	129,229	3,342	122,544	255,115				(543,650)		
調査委託費	1,373,619	18,099,609	1,362,744		636,360	20,109,588	472,730	43,319,946	6,664,110	50,456,786				(70,566,374)		
広報費					20,000	1,382,744	144,720			144,720				(1,527,464)		
諸会費					567,325	0	13,580	5,970	19,550					(567,325)		
保険料		8,572			0	8,572	44,185	57,240	101,425					(19,550)		
雑費														(109,997)		
②管理費		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(47,848,491)	(0)	(0)	(47,848,491)		
役員報酬									7,428,206					(7,428,206)		
給与手当									8,637,815					(8,637,815)		
アルバイト料									352,500					(352,500)		
派遣料									3,755,023					(3,755,023)		
退職給付費用									993,220					(993,220)		
退職金共済掛金									168,400					(168,400)		
福利厚生費									1,832,515					(1,832,515)		
会議費									1,454,848					(1,454,848)		
旅費交通費									3,137,977					(3,137,977)		
通信運搬費									349,569					(349,569)		
減価償却費									1,005,764					(1,005,764)		
消耗品費									225,678					(225,678)		
印刷製本費									402,497					(402,497)		
賃借料									3,025,632					(3,025,632)		
支払報酬									3,932,548					(3,932,548)		
支払手数料									290,401					(290,401)		
新聞図書費									225,486					(225,486)		
水道光熱費									189,868					(189,868)		
和税公課									5,297,150					(5,297,150)		
会合費									2,820,602					(2,820,602)		
E D P 費									236,178					(236,178)		
広報費									37,800					(37,800)		
諸会費									1,542,178					(1,542,178)		
保険料									242,816					(242,816)		
貸倒引当金繰入									3,000					(3,000)		
雜費									260,820					(260,820)		
経常費用計	20,164,848	27,936,042	2,589,433	1,488,771	9,413,656	61,592,750	15,392,323	43,944,847	36,511,638	95,848,808	47,848,491	0	0	205,290,049		

(単位：円)

科 目	実施事業等会計									その他会計			法人会計	内部取引 消 去	合 計
	国内外調査事業	技術者育成事業	開発高度化事業	安全・安心事業	技術啓発事業	小計	展示会事業	競技会事業	その他	小計					
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 15,391,949	△ 4,178,115	△ 2,589,433	△ 1,488,771	△ 8,172,128	△ 31,820,396	69,607,677	△ 621,827	△ 16,102,247	52,883,603	△ 4,342,617	0	0	16,720,590	
評価損益等計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
当期経常増減額	△ 15,391,949	△ 4,178,115	△ 2,589,433	△ 1,488,771	△ 8,172,128	△ 31,820,396	69,607,677	△ 621,827	△ 16,102,247	52,883,603	△ 4,342,617	0	0	16,720,590	
2. 経常外増減の部															
(1) 経常外収益															
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
(2) 経常外費用															
①固定資産除却損	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	
電話加入権除却損	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
経常外費用計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
他会計振替額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
税引前当期一般正味財産増減額	△ 15,391,949	△ 4,178,115	△ 2,589,433	△ 1,488,771	△ 8,172,128	△ 31,820,396	69,607,677	△ 621,827	△ 16,102,247	52,883,603	△ 4,496,217	0	0	16,566,990	
法人税、住民税及び事業税						0					0	12,433,183		12,433,183	
当期一般正味財産増減額	△ 15,391,949	△ 4,178,115	△ 2,589,433	△ 1,488,771	△ 8,172,128	△ 31,820,396	69,607,677	△ 621,827	△ 16,102,247	52,883,603	△ 16,929,400	0	0	4,133,807	
一般正味財産期首残高	△ 32,026,072	△ 13,396,523	△ 5,438,066	△ 2,639,525	△ 12,512,536	△ 66,012,722	144,705,976	△ 4,976,052	△ 42,726,851	97,003,073	267,736,152	0	0	298,726,503	
一般正味財産期末残高	△ 47,418,021	△ 17,574,638	△ 8,027,499	△ 4,128,296	△ 20,684,664	△ 97,833,118	214,313,653	△ 5,597,879	△ 58,829,098	149,886,676	250,806,752	0	0	302,860,310	
II 指定正味財産増減の部															
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
指定正味財産期首残高	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
指定正味財産期末残高	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
III 正味財産期末残高	△ 47,418,021	△ 17,574,638	△ 8,027,499	△ 4,128,296	△ 20,684,664	△ 97,833,118	214,313,653	△ 5,597,879	△ 58,829,098	149,886,676	250,806,752	0	0	302,860,310	

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

- (1) 「公益法人会計基準」（平成20年4月11日 平成21年10月16日改正 内閣府公益認定等委員会）を採用している。
- (2) 有価証券の評価基準及び評価方法
①満期保有目的の債券……償却原価法（定額法）
②その他の有価証券
a. 時価のあるもの……期末日の市場価格等に基づく時価法
b. 時価のないもの……移動平均法による原価法
ただし、当年度は該当なし。
- (3) 固定資産の減価償却の方法
①建物附属設備………定率法による。
②器具備品 …………定率法による。
③ソフトウェア………定額法による。
- (4) 引当金の計上基準
①退職給付引当金………期末要支給額の一部を外部積立てし、残額を債務に計上している。
②貸倒引当金………法人税法に基づく繰入限度額を計上している。
- (5) 消費税等の会計処理
消費税等の会計処理は、税込方式によっている。
- (6) リース取引の処理方法
所有権移転外ファイナンス・リース取引については、原則として通常の売買取引に係る方法に準じた会計処理によっている。

2. 特定資産の増減額及びその残高

特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
退職給付引当預金	24,820,915	3,052,360	0	27,873,275
合 計	24,820,915	3,052,360	0	27,873,275

3. 特定資産の財源等の内訳

特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産からの充当額)	(うち一般正味財産からの充当額)	(うち負債に対応する額)
退職給付引当預金	27,873,275	0	0	27,873,275
合 計	27,873,275	0	0	27,873,275

4. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
建物附属設備	1,664,113	844,009	820,104
器具備品	1,237,248	850,654	386,594
ソフトウェア	1,260,000	714,000	546,000
合 計	4,161,361	2,408,663	1,752,698

5. 助助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高

助助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高は、次のとおりである。

(単位：円)

補助金等の名称	交付者	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	貸借対照表上の記載区分
中小企業人材確保推進事業助成金	東京労働局	0	4,675,000	4,675,000	0	
合 計		0	4,675,000	4,675,000	0	

財務諸表の附属明細書

1. 特定資産の明細

(単位 : 円)

区分	資産の種類	期首帳簿価額	当期増加額	当期減少額	期末帳簿価額
特定資産	退職給付引当預金	24,820,915	3,052,360	0	27,873,275
	特定資産計	24,820,915	3,052,360	0	27,873,275

2. 引当金の明細

(単位 : 円)

科目	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他	
貸倒引当金	22,000	3,000	0	0	25,000
退職給付引当金	24,820,915	3,052,360	0	0	27,873,275

監査報告書

一般社団法人 組込みシステム技術協会

会長 築田 稔 殿

平成27年 5月 13日

監事 小幡 忠信



監事 小森 谷 豊



私たち監事は、平成26年4月1日から平成27年3月31日までの事業年度の理事の職務の執行を監査いたしました。その方法及び結果について、次のとおり報告いたします。

1 監査の方法及びその内容

各監事は、理事及び使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査いたしました。以上のことに基づき、当該事業年度に係る事業報告について検討いたしました。

さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る財務諸表（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及びその附属明細書並びに公益目的支出計画実施報告書について検討いたしました。

2 監査意見

(1) 事業報告等の監査結果

- 一 事業報告は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- 二 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。

(2) 財務諸表及びその附属明細書の監査結果

財務諸表及びその附属明細書は、法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に示しているものと認めます。

(3) 公益目的支出計画実施報告書の監査結果

公益目的支出計画実施報告書は、法令及び定款に従い、法人の公益目的支出計画の実施の状況を正しく示しているものと認めます。

以上